新眞婦人

九月號

第五十三號

戰爭と婦人號

[illegible]
大正六年九月一日發行（毎月一回一日發行）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

院長診察月、金、木午前及木午後六時
林、峰間、兩副長は目下當院に在勤

東京麹町三番町三十番地（市ヶ谷見附内）

東洋内科醫院

電話番町六二番

院長　醫學博士　高田畊安

電話ちがさき二番

南湖院

神奈川縣茅ヶ崎海濱（從停車場半里）
河野、高橋兩副長は目下當院に在勤
院長診察土曜日午後入院診後應需

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

德富健次郎著

死の蔭に

第十七版

定價　壹圓八拾錢
郵税　金拾貳錢

何處からともなく死の宣告が下つた。死神の甘い囁やきも頻に誘ふ。踏止まる力はぬけて、ずるずると死の方へ引きずられる。一思ひに死んでのけやうか。何處やらにまだ未練が殘る。いよ〳〵殺す氣か、それとも生きる路の一筋を糸程にも殘してあるのか、五尺何寸眇たる此身を父の宇宙に投げつけて、はつきりした答を聞かう。若しまたどうせ死ぬものなら、死ぬ其前に愛したすべてに今生の別を告げ、死刑囚が絞臺に上る前にふかす名殘の莨三本、許されるかぎり歡樂も取つて見やう。こんな心から著者は家族引連れ、九州から南滿洲朝鮮、さては山陰道かけて秋の三月を半死半生にさまよふた。今から四年前の事である」死は到頭やつて來た。それは必しも彼が期待した死ではなかつたが、死には違ひなかつた。長旅から歸つて唯半歲、父の死と共に彼の死は來た。閉門三年、墳墓の蔭に彼は住んだ。「死の蔭に」は其墳墓の蔭に書かれたさまよひの旅の追憶記である。

發行所　東京日本橋西河岸町十五　振替口座二二九四六　大江書房

九月號の目次

表紙　池田燕園女史筆
口繪　早川桂太郎氏筆
卷頭語　婦人界の更新
戰爭が如何に婦人に影響しつゝありや　ウエルス…（二）
日本婦人戰後の覺悟　法學博士　山脇玄…（四）
戰爭と婦人　西川光二郎…（九）
草の花　栖三郎…（一二）
就學兒童の體格檢査　山田わか…（一三）
墮落して行く女　市場鴨村…（一九）

女の弱さ　西川文子…(二二)
夏子　小村夏子…(二五)
王女の死　早川桂太郎…(二九)
靜岡より　黒百合…(三二)
自分で注意することの出來る樣になつてからの健康法　高野太吉…(三四)
勝腹術　竹内千代…(三六)
醍醐味と醍醐素　記者…(三八)
ポプラの葉影　村木きよ…(四〇)
良縁(四)　山本勇夫…(四五)

九月一日發行

大正六年五月二日
天皇陛下　東京奠都五十年奉祝博覽會へ行幸の際當社出品御買上の光榮を蒙る

東京品川御殿山

ビスケット
ドロップス 製造　東洋製菓株式會社

電話 芝長二三三番
芝七〇三四番
振替口座東京三五三一番

當期の御用には是非これを

本部改築中の所（化粧部 化粧品部）共完成仕候間御來車希上候

理容館特撰夏期化粧料

夏分特製	ライラック水	あつさりとして艶々しい化粧心地は他のまねの出來ぬ本品獨歩です、白粉下風呂上り溶水荒れ止によろし、粗製品あり特製品に御注意	1.00 .70 .50 .30
顔用襟用	理容白粉	特に夏用分は汗にも浮かずノリノビ自在長時間保つ事實驗上請合ます純無鉛芳香にて量多く襟につかず	.50 .35
シミソバカス	マッサージ用クリーム	脂肪で白粉乘らず何となく色穢き方吹出物の方素顔を美しく見せ度き方白粉キライの方に御進めいたし升	1.50 .85 .50
家庭用素人向	簡易美顔術箱	家庭に居て遠方でも立派に美顔術が出來ますお顔のいろ〳〵の故障を治し垢ぬけして見違る程美しく成升	4.80 3.80
白粉下荒れ止	ハイジエニック、クリーム	化粧下に此位良い品は今迄にありません、又荒れた防ぎ皮肌を肥します、秋より冬にかけて最も有効です	.60 ,45
純良無比	固形ぬか	日本には純良のぬかに越した美顔料はありません本品は純良ぬかを固形にせる物便利で何とも言へぬ使ひ心地です	.65 .15
理想的七日持	旅行用化粧箱	極新式型立派でカユイ所に手の届く樣に便利で化粧料も詰めてあります	5.00 4.50 4.00 3.50
英米佛新着	優良粉白粉	一一、試驗濟、濃きも薄きも御好み次第品は頗る優良品のみです	.40 .50 .75 1.50
英米佛新着	コールド、クリーム	アブラの少なき冬の化粧下、及荒止めにて、アブラのキライな方に好適	.50 .60 1.65
キハツ代用	ライラック化粧水入理容白粉	白粉で化粧水を兼れる日本で初めての品初夏の化粧には最も理想的	.35
米佛新荷	パウダー、パッフ	紛白粉を付けるには是が無いとうまく行きません、今回非常な逸品入着せり	·20 .25 .50

御婚禮御化粧御仕度、寫眞御化粧、美顔術——理容館化粧部——遠藤波津子

（送料 内地八錢 海外卅錢）

大阪特賣所

大阪市東區南本町中橋筋角 電東三二三一

香取屋化粧品部

新橋竹川町十二 理容館 電新三五一一 振一四一〇〇

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

産科婦人科小兒科

女醫 吉岡彌生
鷲山改め

院長診察 宅診午前 往診午後

醫員診察 午後

産室及病室の設けあり隨時入院の需めに應ず

東京麹町區飯田町四丁目卅一番地

東京至誠病院

（電話番町二二五七番）

脳病精神病専門

東京巣鴨町四丁目巣鴨電車終點先二丁

巣鴨脳病院

（長電話小石川一六六）

院長　醫學博士　石川貞吉

入院隨意

最も人にきらはれる わきが

の病に罹られたる御方又永年慢性わきがにて色々の治療を施されても治らずに苦まるゝ御方の爲めに不思議によくきく治療法を御知らせ致します御望みの御方は御遠慮なく只返信料三錢切手御送り下されば御知らせ致します

東京神田區錦町三ノ三　中村喜三郎

脳神經精神病

東京赤坂　帝國脳病院改

青山脳病院

院長ドクトルメヂチーネ　齋藤紀一

醫學士三名

田澤醫學士

特長電　芝二七四四　芝二六六五　三六七五

脳病精神病専門

南葛飾郡龜戸、龜戸一一二〇

加命堂脳病院

電話本所二五五二番

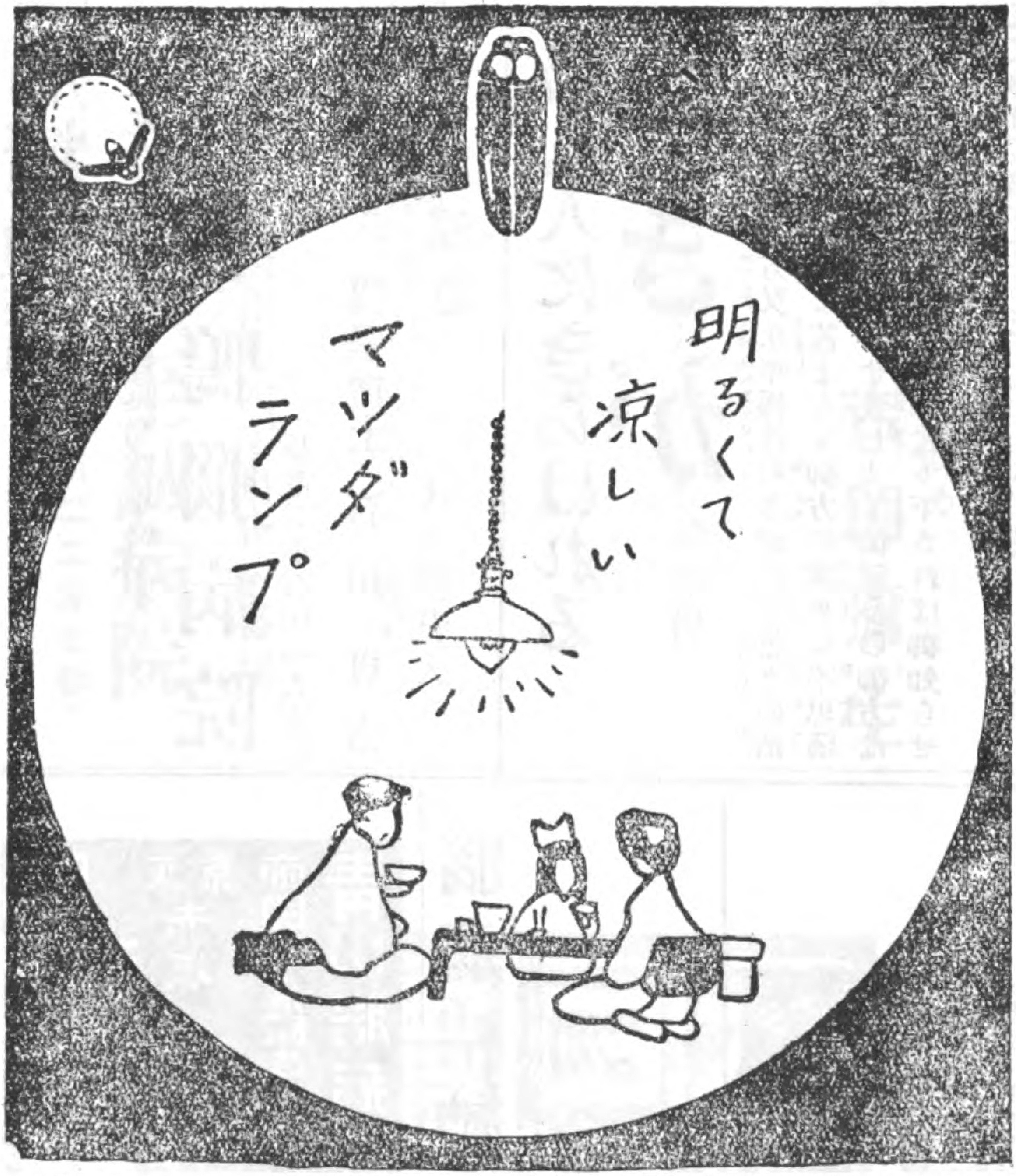
院長　奈良林淺次郎

カタノコリ、神經痛、リウマチス總て痛所に妙効あり（五錢●十錢●二十錢●五十錢）

全國到る處の藥店にて販賣す

東京市日本橋區箱崎町二丁目　東京製藥社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



東京電氣株式會社
神奈川縣川崎町
販賣部 出張所 東京 橫濱 名古屋 大阪 門司 福岡 仙臺 札幌 大連 上海

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

祈を終へしエリサベット（「王女の死」参照）

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

子宮病、血の道等にて苦まるゝ方々は
ホシ血の道藥を服用してお身の健康を
計られよ！
冷へ性の人―子なき人
試みよ！ホシ血の道藥
内用 振出し
ホシ血の道藥
外用 挿入藥
ホシ婦人坐藥
定價
十錢 卅五錢 六十錢
廿錢 五十錢 一圓
各地特約店及藥店に有り
發賣元
星製藥株式會社
東京京橋區南傳馬町三丁目 振替東京二〇五二二番

●洗濯石鹸の騰貴驚くに足らず

太陽コナ石鹸半額販賣

正味袋入として

壹圓なれば貳圓分

五拾錢なれば壹圓分

廿五錢なれば五拾錢分

新橋際 天下堂

神田小川町 天下堂

青山北町三ノ六 柳屋商會

電話芝二八八四番

振替東京五二八七四

僞物あり太陽印コナ石鹸に御注意を乞ふ

産婆看護婦派出

生徒養成

東京市芝區三田四國町二番地五號

東京衛生團産婆看護婦部

電話芝八百六十四番

部長山下改メ 産婆看護婦 山本まつ子

府下荏原郡大崎町大字桐ヶ谷三百五十九番地

産婆部 大崎支局

産科婦人科 小兒科

宅診午前

往診午後

內藤新宿番衆町三一

女醫 井出茂代

電話番町三六七七番

産科
婦人科

篠田病院（入院随意）

女醫 篠田せい子

本郷區丸山新町

電話小石川二一九

リウマチス

▲難病にてあらゆる療法効なく御困りの御方に不思議に早く治る弊店家傳の……………秘薬を御報らせします、御全快の皆様から日々澤山の感謝狀を下されます

東京市・淺草觀音仲見世。天勇橫通

井筒屋油店

電話下谷……三一五番
振替口座一九六五二番

皮膚科　梅毒科

泌尿器科　腎、膀胱、尿道、睾丸、攝護腺ノ疾患

生殖器科　男女生殖器機能障害

婦人科

日本橋區通二丁目白木屋出口前

電本局三九八〇番

中嶋醫院

院長 ドクトル メヂチーネ 中島鎌太郎

新設 芝區田村町十三番地愛宕下町通り

中嶋醫院

ゼルシー牛乳は弊舎唯一の特色なり

小供専用牛乳は其特別なる成分は高評尤高し

山羊乳は其種類の優秀を以て誇りとす

小石川
興眞舎

電話小石川六五五

番町四三五八牛込支店

本社取次書籍

西川光二郎著

神道教祖傳	定價四十五錢
心懐語	定價五十錢
實踐道德簡易入門	定價四十錢
偉人の戀物語	定價七十錢
早老豫防法	定價五十錢
斷食療法	定價七十五錢
最新健康法全書	定價壹圓
自然療法	定價壹圓
生活の力となる道德	定價壹圓

西川文子著

婦人解放論	定價壹圓

定價に相當する丈けの金額を御送りあらば、郵稅は本社持ちにて御送りします

東京市本郷區駒込
動坂町三二七
振替二四五五六

新眞婦人社

資本金 五百萬圓

丁酉銀行

本店 京橋區宗十郎町

支店 日本橋區呉服町

同 深川區富吉町

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

高島米峰先生新著

熱罵冷評

▲深刻痛烈骨を刺し肉を剜る

四六判奇装
定價壹圓
郵稅八錢

既に成金あり成貧なかるべからず宜なり景氣酒に醉ひ倒るゝものゝ蔭には生活難に泣き叫べる者多きことや如何にして彼等を覺醒し如何にして彼等を救濟すべきかこれが解決の如きも亦本書の目的の一なりと雖もしかも強烈なる刺戟を與へて以て現代青年の神經衰弱症を醫し社會をして生々活動の氣を振作せしめむとするが如き實に本書の大目的たり

高島米峰先生新著

二十歲前後主義

好評第三版
定價一圓
郵稅八錢

高島米峰先生著

一休和尚傳　定價九十錢郵稅八錢
廣長舌　定價七十錢郵稅八錢
噴火口　定價八十錢郵稅八錢

理想的商業　定價廿五錢郵稅四錢
惡戰　定價八十錢郵稅八錢
店頭禪（目下品切）

東京小石川原町　東京一五六八六　丙午出版社
東京小石川原町　東京一三五三　鷄聲堂

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日本女子商業學校 校長 和田垣謙三博士
學監 嘉悅孝子先生 題字

同校 幹事 小田綱太郎先生
同校 婦人武道講師佐藤完實先生 共著

新刊

女子練膽法及護身術

婦人の修養は刻下の急務!!! 錬膽は修養の眼目!!!

三六版上製美本
寫眞版五十葉入
定價金六拾五錢
郵税金六錢

見よ參戰國の婦人を、勞動に執務に克く其責を全うし出征男子をして何等後顧の憂なからしむ國家の消長は婦人の心身修養如何に依るや大なり、本書は多年研究せる精神修養の眼目たる『女子錬膽法』を今回發表せられしもの後半護身術は東都各女學校の婦人武道講師たる佐藤先生が十數年間苦心研究の結果全く『獨特』の創定にかゝる『實行容易』無手『護身』の秘法を實演寫眞挿入懇切に指導せられたるもの也。

發行所 東京市神田區下白壁町十二番 振替東京三二〇二一番 東洋出版社

取次所 神田 東京堂 京橋 北隆館

三階　二階　階下
大陳列場
御婚禮道具一式調製

(清)
東京市京橋區金六町角
鷲塚高等簞笥店
電話京橋　五百七十一番
　　　　　三千四百五十五番
振替東京　一九三七〇番

商品目録送呈
第一向島工場
向島隅田村一三六九番
電話本所五百二十六番

（第三十五號）

九月號

婦人界の更新

今度の歐洲大亂は、露國の革命よりも大きな革命を、婦人界に起しつゝありとは、歐米識者の言である。

ソレ程に、歐洲戰亂の影響は各國婦人に及びつゝあるので、我社は特に世界婦人界の趨勢に注目し、其の報道、研究に努めつゝあるのですが、本號に於ても亦、卷頭を飾るに之れに關する三文を以てしました。特に注意して之れは讀んで下さることを希望する。

今後も勿論、本誌は高き立場から日本の婦人界に向て、警鐘を亂打して止まない覺悟である。

戰爭の影響

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

戰爭が如何に婦人に影響しつゝありや

エチ・ジイ・ウエルス

エチ・ジイ・ウエルスとは如何なる人ぞ。此の間米國から歸つた厨川白村氏の談話の中に、ウエルス氏に關し、左の如き言がある。「目下英米で非常な人氣を呼んで居るのは英のウエルスが書いた「ブリトリング君の洞察」と、その續篇の「見えざる神」で、その內容は物質に向つて居た文明が戰後急に精神的方面に向ふだらうといふ豫言で、彼の豫言は不思議によく當るから、幾らか眞に成るだらうと思はれる、そして之に關聯して在來の敎會的宗敎信仰で無く、新しい眞の個人の宗敎信仰が復活するだらうといふ事を前篇の主人公に云はせ、後篇で具體的に著者自らも說明してゐるつまり戰爭が動機となつて平和論と一種の精神生活が新にされるといふのだが、要するに十九世紀後半からの當然產み出さるべき機運であつたのである」

左は卽ち斯人の近著「戰後の豫想」中の一章「戰後の婦人は如何にあるべき？」の要點である。

此の戰爭が如何に男女の關係に影響せしかの問題に比すれば、其他一切の問題は比較にならぬ程、小さな問題である。何んと云ふても人間にとりて第一に大切な問題は、神と人との關係であつて、第二に大切な問題は男と女との關係である。私は今此の大問題に就て自分の見る所を發表して見ようと思ふのである。

○

さて千九百十四年に於ての如く、男女の關係が不安であつたことは、未だ曾てない。獨乙人は之れを見て婦人の選擧權要求運動は、英國を痲痺せしむるならんと考へた程であつた。此の年婦人の選擧權要求運動が斯くも熱度を高めたのは、第一には、結婚率が減じて獨身婦人が增加せし爲めであり、第二には出產率減じて家庭の人數が減じ、且つ知識進步の結果、家庭の勞働が輕減されて、既婚婦人も家庭外の事に手を出し得ることゝなつた爲めであり、第三には敎育普及の結果婦人の知識も進步せし爲めであつた。卽ち此等の原因から有り餘るに至つた婦人の精力が爆發して、彼の開戰前の婦人選擧權要求の運動となつたものであつた。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

此の運動は開戰と共に忽然影を潜めしも、斥は議論が止んだ丈けのものであつて、事實婦人の運動は止んだものではない。否反て開戰と共に婦人は次第に戰前の凡ての僻見を破つて有らゆる職業に就事するに至つた。之れが戰後、戰前の狀態に囘復すべしとは思はれない。彼女等は元より男子の代りとして夫々の職業に就事するに至つたが、併し劣れる代用者ではなかつた立派に男子の爲すべきことを爲して居る。

斯くして日々に增加しつゝある獨身婦人の數は、更に戰爭の爲めに出來る夥しい未亡人の加はることによつて異常に增加して居る。此等の獨身婦人が社會の慣例に如何なる影響を及ぼし、又其の周圍の既婚婦人に如何に影響すべきか。

既婚婦人もダン／＼家庭の餘力を以て獨身婦人の如く社會の爲めに働き得るに至りつゝありて、其の心持にも變化の徵候が見へて居る。

獨力で生活せる婦人は、一人で旅行し、一人で旅館に泊り、又一人で料理屋へ行くことを好むに至るのが常で、斯かる婦人は男より同性として話さるゝことを好み、異性らしく取扱はるゝことを好まないのが常である。

之れと正反對の女らしい女、女として取扱はるゝことを好む女も、今尙ほ多く、多數は此の兩極の間に浮動しつゝあるのであるが、獨身婦人の增加と共に、男らしい婦人の勢力がダン／＼增して行く。而して戰爭はどつちかと云へば婦人を愈々男らしからしめつゝあり。夫れは開戰後著しく婦人の服裝なり言行なりが、單純活潑になつたのを見ても分る。

同時に昔は、一度結婚せば、婦人は凡てを家庭の爲めに犧牲として仕舞はねばならなかつたが、今日は然からず、ダン／＼出產率も減じ、文明の恩惠で家庭の勞働も輕減さるゝに從ひ、家庭はそれ程、婦人の重荷ぢやなくなつて來た。今や婦人も男子と同樣、結婚によつて從來の仕事を捨てなくてもよい樣になつて來た

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

從てホームと云ことよりもラブと云ふことに重きを置く樣になつて來た。從て又結婚せずしての男女の同棲を寬容し、離婚を平易に考ふる樣にもなつて來た。戰爭は此の傾向をも愈々甚だからしめつゝあるが、戰後に於ても同じ方向に進むことであらう。

○

けれども戰後男子の缺乏と、人口の增加に對する熱望とが、多妻主義を許すに至らんとの說には、私は同意することが出來ない。何せと云ふに男子が今日如何にしても一妻多夫を許すことの出來ぬが如く、知識ある婦人は何んとしても一夫多妻を許すことが出來ないからである。其の上に多妻主義を是認せぬ信仰も習慣もあることなれば、どうしても其の實行は出來まい。亂暴な獨乙と雖も、ソレは出來難からん、若しも獨乙に於て戰後多妻主義を實行すとせば獨乙は羅馬法皇との、今日善良なる關係を、斷絕せねばならぬ。イヤ多妻主義にならぬのみか、戰前に結婚率の減少しつゝありし如く引續き戰後も結婚率が減少して一夫一婦とさへもなり得ぬものが增加するであらう。

日本婦人戰後の覺悟

法學博士　山脇玄

日露戰後世界一等國の仲間入りをした我國も一度歐洲の大亂勃發以來、深く考へて見て、何れの方面も獨立し得ない幼稚な狀態にあることが分つた。而かも此の時に際して我國民を指導する政治家もなければ、敎育家もなく、又國家の信用を增す實業家もないと云ふ有樣。社會の改善に就て考へても、何にから手をつけてよいか迷ふ位である。併し社會の改善は家庭生活の改善から始めねばならぬのは云ふまでもない。更に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

溯れば家庭生活の面白からぬのは無自覺なる結婚問題に原因しなければならぬ。

若し男女純潔なる家庭を組織せば、其の家庭に育ちしものは、自然に健全にして善良なる第二の國民となるべく、從て社會の凡ての方面正しく眞面目になり、社會、國家の隆運を齎すことが出來ると思ふ。コウ云ふ立場から、戰後の我國婦人は如何なる覺悟を要するかと云ふことに就き、少しくお話して見たいのである。

○

獨逸より歸りし人の話に、獨逸の今日あるは全く中流家庭の健實なる發達によるのであつて、中流家庭の主婦達は勤勉力行して貯金し國家の緩急に際しては盛んに軍事公債に應募する、獨逸が數ケ國を相手にして萎縮しないのは、此の家庭の後援あるによるとのとである。何所の國に於ても同じこと、中流社會の家庭で金の有り餘る筈がない。たゞ獨逸の婦人は家長の外で儲けて來た金を節約して浪費を省くと共に、或は内職し、又或は商賣をすると云ふ風にして、貯金をするから、事あるの日、國債にも盛んに應募し、又其の子弟を競ふて大學へ行かしむることも出來るのである。獨逸の官吏は大抵中等社會のものであると云ふ。日本婦人も此の際大に覺悟せねばならぬ。由來我國民は男女共に經濟心と秩序心とに乏しく、從て無駄な生活をして居る。故に一般に生活の仕方を改善し、萬事經濟的に運用することを大に工夫せねばならぬ。

併し大げさに、社會生活の大部分を改善すること容易でないから、先づ各自の經濟的方面を改めることから着手すべきである。之れは最も實行し易くして効果の多きものである。

物質を無益にせぬと共に時間と勞力を浪費せぬ様にすれば、各自の身心を健全にする爲めにもなるから、縱ひ一分時間と雖も、ダラ〳〵生活することを廢し、時間に價値を持たす様にして、各自の家庭を引しめることが大切である。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

○

次は體育を盛んならしむることである。今日、毎年二十萬の地方の女が、工場其他へ出で其内三千人、結核で死ぬとのことだ。倘ほ統計によれば、我國近年、十五歳より三十五歳までの女子の死亡率恐ろしく增加したとのことだ。斯樣に婦人の健康力孱弱では、今後外國と紛擾を生じて、婦人も働かねばならぬ場合、どうでしよう。故に今より女子の體育に注意し女學校の體操は、少なくとも女子高等師範でやつて居ると同程度とし、他の學課と同樣に取扱ふことが急務である。家庭の婦人も又時間を利用して成るべく自分で用をなし、買物に出る樣にして外出を多くし、外氣と日光とに當り、郊外の新鮮な空氣にふれて身體を健全にすることを忘れてはならぬ。

○

次に今日の戰爭は國家の全力を要求し、一國の男子悉く軍役につくと云ふ有樣であるから殘る婦人は男子に代りて或は農業なり、商業なり、或は又軍器、軍需品の製造なりに働かねばならぬ。されば平常からして何にか一つの仕事に對する素養をつけて置くことを心掛けたいものである。

歐洲大亂の勃發後間もなく、米國の一婦人は交戰國の婦人は如何なる方面に活動せるかを視察し、歸米後直ちに參謀本部に至りて、米國は何時戰爭に加はるべきかと質問し、多分三年後ならんとの答を得た。すると其の婦人は普ねく米國の婦人會へ檄を飛ばして、萬一の場合、看護婦志願幾人、軍需品製造志願幾人と云ふことを調べて置いたと云ふ。

近く露國には婦人義勇團現はれ、又英國に於ては婦人の力で立派に食糧品の製造をやつて居る。此等の事例よりして、右の國々の婦人平時の素養が思ひやらるるのである。

我國の婦人も平素から萬一の場合を思ふて、各自其の志す方面の書物を讀むとか、又或は其の方面の工場

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

などを實地見分するとかしていざと云ふ場合、少し練習せば立派に役に立つ樣になつて居て欲しい。萬一用ゆる場合がなくても、此の心掛あることは、女子の知識を豐富にして、物事に興味を増さしむる所以であり女子職業教育の基礎をかたからしむる所以でもある。

今日新聞等に現はるゝ家庭の悲劇は、大抵婦人に經濟的の獨立能力なき所から起つて居る樣である。悲劇として外に現はれぬまでも、一旦嫁すれば、行くべき所なきより、自分を殺してイヤ〳〵ながら婚家にとゞまりて不愉快な一生を過せるものも實に多い。之れを以ても職業教育を受くることの如何に大切なるかゞ知れる。

古來男子は外に出て生計の資を求め、婦人は内にありて家事にいそしむを原則として居たが歐米に於て女權の聲大となると共に、婦人も外に出づるの傾向は、漸次其の度を進め、開戰後男子と云ふ男子は悉く兵隊として召集されし爲めに、從來輭弱き婦人の到底爲し得べからざるものと認められて居た職業までも漸次婦人の活動範圍となつて仕舞つた。而かも婦人の手で諸般の生産業に至るまで、少しも開戰前に劣らざらしめて居る。

獨逸は此の戰爭の前よりして、戰時を考慮し婦人に對して所要の教育を施さんとして居たものであつて、平時に於ける婦人修養の不足は戰時家政上、救恤事業其他各種の職業に就き頗る不利なる狀況を現出せしめねば止まぬ」と彼等は唱道し來つたものである。

此の説は獨逸女子經濟學校の創設者たるコルツ、フライシユ夫人の始めて唱道せる所で、元より多數の反對論もあるが、兎も角も同國婦人界に於ける論戰研究の的となるに至つてものである。フライシユ夫人の所説の大要は左の如くである。

女子には十四歳より二十歳までの間に於て國家の監督の下に、一年間實用的教育を受けしめねばならぬ。即ち前半年間は家政上の仕事を實際的に教育し、(其の程度は最も單純なる家庭にも適應する樣に之れを定む)後の半年間に於ては、保母、園藝、裁縫其他

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

各種の仕事に區分し、其の一を專修せしめねばならぬ。さながら男子の兵役に於ける歩、騎、砲、工、輜重に於けるが如くに、さて之を受くべき少女の一部は一大救恤機關に收容して敎育を施すを一般とし之れが爲めには現存せる病院、孤兒院を利用し、年々一定の費用を補助して、一定數の少女の敎育を擔當せしむべきである。其他の女子は男子の兵營の如きものを設立して、指導も婦人とし、さながら兵營に於ける將校、兵士の關係に等しからしむべきである。

又平時より軍隊に於ける動員計畫と等しく此等婦人使用に關する計畫を確定して置くべきである。

斯の如くにして敎育せる婦人は、戰時に頗る大なる効あるのみか、平時にも左の如き利益がある。

一、身體の健全、精勤の慣習を得るの利益がある。
十四歲の少女に對しては此種の敎育過重なりとの論あるも、各工場等に於ける此等少女活動の實況を視察せば、思ひ半に過ぐ。

二、女子敎育に於て、知識の注入を主とすべきことを唱道するに對して、實用的能力を尊重するの念を喚起するの利益がある。

三、絕對的の隷屬、服從、義務心、確定等の良性格を養成するの利益がある。

四、各階級のものと生活を共にする結果、廣く知識を得て、主婦の僕婢に對する際などに好影響を與ふるの利益がある。

現時交戰各國の狀態は、良妻賢母たるに止まらず、更に國內活動の中心たり得ることを要求して居るが、文明の權威も何等戰爭抑止の力なく、平和の永續は將來之れを望み得べからずとせば、婦人も亦、戰時其の重任を如何にして完ふすべきかに就き、平時より大に考慮する所なくてはならぬ。

此等婦人の任務は戰爭の勃發と共に開始せらるゝを要し、其の事業は複雜、週到なる計畫と用意とを必要とするものであるから、平常事なきの日より其の用意を忘れてはならぬ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

戰爭と婦人

西川光二郎

獨乙婦人の後援振り

獨乙の婦人は、第一に其の赤十字社事業の活動を充分ならしむる爲めに、之れに大なる後援を與へて居る第二には兵士の送迎、兵士の爲めに設けられたる倶樂部の仕事などに、悦こんで就事して居る。第三には、癈兵の爲めに色々の方面から盡して居る。第四には戰爭の爲めに寡婦となり、孤兒となりし不幸な人々の爲めに、補助者となり、相談相手となつて居る。第五には、兵士の妻の生活を、經濟上から助けたり、之れに職業上の敎育を與へたりして居る。第六には戰爭の爲めに職を失ひし婦人(奢侈品の賣子其他)に職を與ふることに盡力して居る。第七には凡て流行と云ふことに反對し、衣服などの上にも、節約の出來る限り節約することに盡力して居る。第八には鷄卵、牛乳、肉類其他を節約するの必要上から、新しき料理法を案出し之れを各戸の婦人に敎へて居る。

共同料理場

最初聯合國では、食糧の缺乏で獨乙を屈服せしめんとする計畫であつたが獨乙婦人に右の如き豫想せざる用意のあつた爲めに、其の計畫は失敗に歸したのみならず、ウス／＼獨乙婦人の活動振り、後援振りを知りて、英佛の婦人も、食糧調節と云ふことにも、意を注ぐことになつて來た。今度英國政府の食糧調節局と婦人勞動同盟とが協力して共同料理場を設けんとするに至つたことの如きも、其の爲めでしよう

先づ倫敦市内の要所々々に一個の大なる炊事場を設け、其時々の安價なる材料を選んでは之れを購入し、最も經濟的に燃料を使用し、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

手數も可能だけ省いて、そして有ゆる階級の人に適し得る食物を實費で供給しやうといふのです、かうすれば
△滋養の多い品が至極廉價で供給される筈ですが、一度料理されたものは、大きな二重錫張りの箱に入れて一定の場所に輸送しては其處へ買ひに來る人々に賣渡され、物によつては再び温める必要もあらうが、大抵は可なり温かいものを賣渡すことが出來る豫定ださうです。

この料理場は、先づ差當り見本的に倫敦市中に設けられ、漸次地方にまで及ぼさるゝ筈ださうである。

食糧長官の要求

米國では食糧長官フウヴアー氏が婦人に對して左の如き要求を爲し、之れに同意の婦人には、姓名、住所、家族の人數を誌して差出すと共に、其の實行を誓はしめて居る。

一、食糧品は之れを棄てんとする際には、一應考へて見て、利用の途ある限りは利用せよ。
二、食物は少し控目に調理せよ。
三、滋養分の比例に注意せよ。
四、色々に食物を料理して、猥りに食慾を刺激すること勿れ。
五、甘いからとてお代りをせぬこと。
六、間食を廢せよ。
七、午後四時のチー(日本で云ふおやつ)を廢せよ。
八、芝居の後、集會の後にての食事を廢せよ。
九、一週少なくとも一日は肉なし日とせよ。
十、一週一日は小麥を食べぬ日とせよ。
十一、小羊、小豚、雛などを食ふことを禁ぜよ。
十二、バタを節約し、成るべく代用品にて濟ませよ。
十三、電話で買物せず、市場に往きて買物せよ。

此の要求に對し、米國の婦人は「私共も獨乙婦人の爲せしことを、爲さねばならぬ」と云つて、續々其の實行を誓ひつゝありと云ふ。

新しき麵包

又米國では、小麥粉に混ずるに、米の粉、玉蜀黍の粉などを以てしてパンを燒き、小麥の使用を節約し、以て同盟國、特に佛蘭西へ少しでも餘計に小麥粉を送つてやらねばならぬと、主唱するものありて、之れに

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

對して、米國婦人は熱心賛同の意を表しつゝありと云ふ。

同時に、成るべく餘計に芋、豆、米等を食して、パンの消費を減せざるべからずと、主張するものもありと云ふ。

斯く食物の節約をして、同盟國を援助せんとする、米國婦人の、心は如何にも高く、如何にも廣いではありませんか。

米國最初の女代議士
ランキン嬢の言

米國最初の女代議士ランキン嬢は、私共婦人は此の際何を爲すべきかに就き、左の如くに云つて居る。

●第一に、私共各自が其の臺所に於て食糧品の節約に注意するばかりでなく、進んで政府監督の下に共同料理場を設くることを希望せねばならぬ。

●第二に、私共は、折角節約したる小麥が、海外の空腹者の腹に入らずして、ビール其他に醸造さるゝことに、反對せねばならぬ。

●第三に、失職せるデパアトメント、ストアの女賣子等にして、軍需品製造工場に入ることを欲せざる人々の、處置を考へねばならぬ。

●第四に、私共は、如何なる場合にも、教育費の節約と云ふことには、反對せねばならぬ。

●第五に、英國に於ても、獨乙に於ても、開戰後、少年犯罪者が著しく增加したと云ふが、我國に於ても此の危險なしとしない、私共は此の危險を豫防せねばならぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

草の花

橘　三郎

空うつす水のさびしさ何やらむこころをほのに
かすめゆきけり(十首、和歌山にて)

自を歎き慣れしさみしさよかやつり草に秋の風
ふく

さや〳〵と秋の夕陽の泌む草にわたる風ありさ
みしく眼を瞑す

さや〳〵ともろこし畑の穂並ゆれゆれつゝ月は
いでにけるかも

蟲鳴くもさびしき人のおもかげを思ひ出でつる
灯をともす窓に

いつになく夏やせしぬと灯の前にひとり言する
母のさびしも

蠅一つ追へど追ども迷ひ來る夜はおそろしきま
で靜かなる

あるとなき思ひ出のころふるさとの古壁に鳴く
朝のこほろぎ

草の花白くかなしき草の花あしたの雨にふるへ
つゝ咲く

ものおもふこころにほのに夏草の匂ひまつはり
晝ふかみゆく

白塗の小蒸汽船の浮びたるみなとさびしく日向
雨する

草ふめばちる白露に初秋は朝の心のしづかなる
かな

わすられし新聞紙ありほの白く緣にけぶれる秋
雨かなし

水郷の夏の夜更けのともしびのいたくまたゝき
雨ふらむとす

いつしかに夏はふけ行きいとゞ鳴く夜はおとな
しく衣をや縫へる

なつかしき雨後の夜空のうす明き愁ひの底を鳥
鳴き過ぐる

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

就學兒童の體格檢査

山田わか

文明又は進歩など、云ふ言葉は誰でもが口にしてゐる事で、そして其の意味は漠然として掴みがたいものであるが、要するにこれは幸福の増大と云ふ事になるであろう。

如何に個人的又は國民的の富が殖へても、これが直ちに眞の文明眞の幸福にはならない。勿論、物質文明は人間の苦痛を減じ、幸福を増す手段になるには相違ない。だが、眞の幸福はこれ等の物質の増加が主觀的の幸福に資せられて始めて本當のものになるであろう云ひかへれば、人間が先きに出來てゐなければ、則ち心身が同じ程度に發達してゐなければ物質文明の進歩は却つて、人間の苦痛の根源になるであろう。

故に、我々は自然界を征服して物質文明を創造すると同時に、これを正當に利用する人間を造る事が最も肝要である。で、これを實現するに付ひてはいろ〳〵の問題も起つて來るのだが、其のうちでも兒童教育は最大重要な問題である。そしてこの問題のうちでも兒童の心身の調和を計る事が最も大切な事である。云ひかへれば、兒童の生理狀態を基礎として兒童の智力の發達を計らなければならないのである。

何となれば、同じ六才の兒童でも其の能力は精密に見るならば千差萬別である。が、これをオーザッパに大別すれば四種になる。則ち、耳の發達した、耳から智識を得る子供、目の發達した子供、觸覺の發達した子供、思考力の發達した子供等であるが、これ等の子供を一室に集めて一樣に敎授する事は、何と云ふ亂暴な仕方であろう。子供の精力の大部分は全く無駄に費されてしまう。智力の不經濟も亦甚しいものである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と、云ふやうな考へを私は常に持つて居た。處が今度、はからずも海軍々醫中監立野至氏の御厚意により私の其の考へを裏書するやうな一論文が手に入つた。其れは哲學博士バーナム氏の執筆にて、米國一醫學雜誌所載のものである。私は次に其の論文の大要を御紹介する。

兒童が就學に適して居るかどうかをと調べずに入學させる事は全く無駄である。敎へられても其れを取り入れる能力が無かつたり。或ひは又却つて兒童を害ふ事になるのに公金を費して敎授しやうとするのは何故であろう。敎師も亦不適當な子供が中にあるために授業上に手違ひを來し、學校敎育の目的を遂せられない場合に往々出會はす、衞生と云ふ事は別として、唯、常識と有效と云ふ見地から考へても、兒童就學の折りに相當なる體格檢査を經ずに、そゝつかしく兒童に就學させるに附いては如何なる理由があるであろう。嚴密な體格檢査を行つた後缺點のある兒童は就學をのばすか、又は、特別な組を設けて敎授しなければならない筈である。

學校のもう一つの問題は級に付いてゞあるが、兒童の就學の折りに正確なる檢査を行つたならば、そして兒童の種類を分けたならば、つまり、心身の虛弱者は虛弱者計りの級を設けると云ふやうにしたならば、この問題は容易に解決出來るのである。そして、又、正確に就學させる事は落第を妨ぐ事になる。或ひは落第でなくとも不成績を妨ぐ事が出來る。

凡ての學校問題の中で最も要用なものは敎師と生徒の間に正しい關係をつける事であるが、これも兒童就學の折りに嚴密な檢査を行つたならば、それはたやすく出來る事である。目の惡い子、齒の惡い子、慢性病にかゝつて居る子、又は、子供のために善からざる家庭に居る子等があつたりするために敎師は非常な不便を感じなければならない。又、我々が至る處に於て見出す大なる敎育家の誤解は、敎育しやうとする子供をそつちのけにして、唯、敎へる問題にのみ重きを置いてゐる事である。けれども就學に當つて體格檢査を行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

へば敎師は一人〻〻の兒童の必要を知る事が出來る。かくして得た敎師の利益は直ちに又兒童の兩親の利益である。

學校に於て得た智識は比較的大したものではなく、在學中につくつた習慣や、人生と社會と働きに對する態度が重要なものであると云ふ事を今や敎師等は認め始めた。兒童の學業を正しく進ませ、學校に對する正しい態度を兩親にとらせるため兩親を發達させて置き又、他の一方に於ては生徒に對する敎師の態度を正しく保たせやうとする事は最も大事な問題であろう。

就學に附いての體格檢査を主張する事は一見空想のやうに思へるであろう。けれども、今日實行してゐる學校の衛生法も始めは空想と思はれたものである。勿論、こう云う計畫に關して大なる困難の伴ふのは當然である。そして、其の困難の一つは莫大なる時間と金がかゝると云ふ事である。けれども兒童の一生は正確に就學させる事によつて大影響を蒙むる以上は、又、兩親と敎師の態度が其れによつて定められるならば、又、兒童の成績は入學の時の適當さによつて大ひに消長されるものならば、其の時間と金とは最も有効に費されたものではあるまいか。もし、兩親がかくの如き體格檢査のため半日を費したとしても、勿論、場合によつては片親だけの立合ひでいゝとしたならば兩親の職業に左程影響も與へないであろう。で、恐らくは其のために兩親は學校の事業に趣味をもつやうになりこの機會を利用し、敎師と共同し、そして、彼等は子供の健康狀態にもつと智力的に注意を拂ふやうになるであろう。

國家は當然かくの如き事柄に干渉する權利がある處ではなく、却つてこれは國家の義務である。國家は丁度種痘に對する態度と同じ態度を就學兒童の體格檢査に對してもつべきである。兒童は傳染病を學校へもつて來てはならないと云ふ事に付いては皆承知して居るが、これ以上の干渉は個人の權利、家庭の特權を蹂躙するもの丶やうに考へる者があるやうであるが、これは衛生の作用は消極的のものであると云ふ昔の考への

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

遺物である。今日の進歩した考へ、則ち、衛生は積極的な作用であると云ふ考へをもつてすれば、學校の課程を有效にそして健康に踏まさしむるために或る程度迄發達した狀態を要求するのは充分理由のある事である。

家庭と學校の共同が必要であると云ふ事に思慮ある人は皆心付いてゐる。唯、これを一般的にしなければならないと云ふのが焦眉の問題である。そして、この體格檢査は其れを一般的にするよき機會である。子供の特長や子供の病氣の歷史や又は一般衛生狀態に關して兩親と話し合ふ事は、兩親でなければ知る事の出來ない子供の性質が直ちに敎師及び校醫に認められ、從つて共同の態度がたやすくとれる事になる。

家庭と學校との間に共同がないために引き起される禍はしば〳〵摘發されるが、これは敎師と兩親の態度によつて說明する事が出來る。兒童の課業が重過ぎると云ふやうな問題が論ぜられる時には敎師はいつも家庭を責める。出校前に兒童は家庭に於て既でに疲れる迄仕事をさせられてゐるなどゝ。又、兒童が病氣にかゝつたり、成績が惡るかつたりすると敎師は矢張り家庭を責める、家庭の衛生よりも學校の衛生の方がいいからと云ふ理由で。事實又そうであるかも知れない併し、こゝに一つの明瞭な眞理がある。則ち、これ等の兩親の大抵はツイこの間迄學校の生徒であつた。そしてもう二十五年もたてば今の兒童が亦親になるのである。故に、學校で適當に敎へて置いたならば家庭に前述のやうな親はない筈である。

兩親を敎育する事が第一必要であると云ふ事は今日の敎育に關する文學の材料になつて居る。兩親がもつと敎育されなければ學校問題は解決出來ないと云ふのが一般の悲しみである。けれども我々は如何にして兩親を敎育し始め得るか？これは兒童就學に際し、兩親を檢査官の一人となす事は彼等を敎育し始めるよき機會ではあるまいか。かやうな場合に醫者や敎師は兩親に適切な注告を與へるからこれは彼等の敎育に成るのは勿論、猶それ以上に、兩親は、學校はたやすく始め

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

そしていつでも都合によつては勝手に退學させ得るやうな種類のものではないと云ふ事を悟るであらう。そして、彼等は兒童の生理上及び精神上の發達を遂げさせる事の容易でないと云ふ事を學ぶであらう。今日の入學はあまり容易過ぎる。入學がもつと困難になれば兩親は入學の特權をもつと大切に思ふやうになるであらう。體格檢査に付いてかく考へ來れば其れに必要な時間と金と手數などは何でもない事になつてしまう。

次に起る問題は生徒が中途で退學する事に付いてゞある。何故、彼等は學校の課程を終らないうちに退學するであらう。最も義務教育ならば出校はしてゐるがそう云ふ心持ちでの出校は退學したのと同じである。何となればそう云ふ學童は學校の課程に於て成巧するものではない。兩親も亦學校に重きを置かないから。要するに入學があまり容易である結果、入學の特權を重く見ないからそう云ふ事になるのである。

就學に際しての體格檢査の範圍は獨逸の醫者の提案が最も適當であるやうに思へる。そして其の提案の大要は、第一敎師と校醫と兩親が立合ひの上檢査が行はれなければならないのは勿論、其の檢査の要點は次の四ツに歸する。

(1)、年齢と其の時の生理狀態が一致してゐるかどうか？云ひかへれば學齢には達してゐても生理狀態が果して學業にたへるだけに發達してゐるかどうか？

(2)、智力發達の程度、則ち、學業にたへるだけに智力が發達してゐるかどうか？

(3)、生來の缺點が生理上にあるかどうか？

(4)、兒童の病氣の歷史は如何なるものであるか？

等である。で、以上の論文の要點を略記すれば。

(1)、生理的精神的に充分發達してゐない兒童は入學せしめざる事。

(2)、敎師が有効に生徒を取り扱ひ得るために各兒童の特長に關する材料を敎師に供給する事。

(3)、各兒童の進歩をさまたげないために同程度の發達をもつてゐる兒童計りで組を造くる事。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(4)、流行病其他の病氣に對し、子供の健康を保護する手段として校醫に病氣に關する材料を與へる事。
(5)、教師が生徒をよく知り、生徒に對する適當な態度を保ち得る事。
(6)、正當に就學させ成績の失敗を防ぐ事。
(7)、どうしても兩親が學校の事に關係しなければならない樣にする事。かゝれは兩親が學校に對する正しい態度をとる樣になる。則ち、兩親教育である。
(8)、今の教育費の大部分は無駄になつて居るから、これを絕對に必要な方面に轉用する事。

詩第二十三編

南湖院長　醫學博士　高田畊安　譯詠

（一）

ぬしこそ（主）　われを（吾）　かふの（牧）　ひとなれ（師）
ぼふきうに（乏窮）　われ（吾）　おちいらし（陷）　ゆめ

（二）

みどりの（綠）　いろの（色）　くさはらの（草原）　うへに（上）
かれは（彼）　われをば（吾）　ふさしめ（臥）　たまふ
かはの（川）　みなぎはの（汀）　やすらかの（安全）　ちに（地）
かれは（彼）　われをば（吾）　みちびき（導）　たまふ

（三）

わが（吾）　たましひを（魂）　はげまし（勵）　おこし（興）
たいろ（正路）　みちびく（導）　いち（一）　ちうぎしん（忠義神）

（四）

われは（吾）　たとひ（假令）　くらき（闇黑）　たにまを（谷間）
たびし（旅）　ゆかざる（行）　べから（可）　ざるにも
わざはひを（災禍）　われ（吾）　おそるべき（恐）　やは
（ワザハヒヲワレ　オソルベキヤハ）
なんぢは（汝）　われと（吾）　ともに（共）　まします（在）
（ナンヂハワレト　トモニマシマス）
なんぢの（汝）　しもと（鞭）　また（又）　ながつえは（汝杖）
それらは　われに（吾）　いつの（一）　なぐさめ（慰）

（五）

なんぢは（汝）　われを（吾）　もてなし（饗應）　たまふ
われの（汝）　てきらや（敵）　そな（其）　ながむらん（眺）
われの（吾）　かうへに（首）　なは（汝）　あぶらつぎ（香沃）
わが（吾）　さかづきは（杯）　かるゝ（涸）　ときなし（期）

（六）

たゞたゞ（只只）　めぐみ（恩惠）　いつくしみ（慈愛）　のみ
けいけんす（經驗）　われ（吾）　いくる（生）　かぎりは（涯）
ぬしの（主）　みやゐに（宮殿）　われ（吾）　すまはなん（住）
いきながらふる（生存）　わがひ（吾日）　すべてな

（大正六年八月上旬）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

墮落して行く女

市場鴨村

心ころ〳〵といふが實に心程狂の激しいものはないまして其究する場合に於て其變化が一層烈しくなる併しこれは男女とも止むを得ぬ現象であらう私が墮落して行く女の告白を聞いて見ると凡てが其究する場合に多いやうである今後教育ある婦人が墮落婦人に同情してこれを救濟するといふ際の如きは殊にこの告白に就て仔細に研究する必要があらう單に身上話も亦一興と聞き去るべきでない。

金井かね

私の父と申すは群馬縣下新田郡先戸村に村長を勤めてゐましたものです其當時は相當の資産も有して居りましたのですが私が恰度七ツの年父は無盡講の歸り途で惡漢に要撃されまして憐れ非命の最期を遂げたのでありますお母さんは兎角身持がよろしくありませんでしたがお父さんの死後間もなく男狂ひをいたしましたので村にも自然居惡くなり私が八ツの春でしたお母さんは無情にも私一人を置き去りにして男と手を携えて東京まで馳け落をいたしそして其後は下谷區數寄屋町にて藝妓となりましたさうです私は止むなく叔父の家に養はれることになりましたが、私はなぜか早熟な俗謠や三味線に憂身を窶し小學校へ參ることなどはどうも氣がすゝみませんでした甚だお恥しい次第でありますが私は十三才の秋仇し男に誘はるゝまに〳〵女の道を破りました十五才の夏のことでした偶〳〵土地の橋梁架け替を請負ました土木請負業の親分高橋鐵次郎、(當時三十七才)なるものと情を通じました工事の竣成をも待ちかねて其年の秋の中ばに互に手に手を取つて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東京まで落ち延びましたそれも僅か二ケ月ばかりで男に棄てられました男に欺かれたと思ふともう殘念で殘念でたまりませんでしたさりとて今更國元に歸る譯にもならずどんな男でもいゝから世話してくれるものがあつたなら其男の爲にどんな苦勞でもして見やうと思ひましたかうなると女も自暴自棄なものです私は思切つて桂庵に參りどうぞ世話してくれますまいかと賴み込みましたのです桂庵も暫しは惘れ顏でありましたがそれならばといふので群馬縣高崎市の某料理店の酌婦に世話してくれました世話と申すよりは寧ろ賣られたのでしたけれど心の狂ひ出した私には酌婦といふ商賣は至極面白い嫁業だと思ひましたのです馴るゝにつれて一ケ所には尻が落ちつかず前橋宇都宮栃木千葉水戸と夫れから〳〵と流れ歩きました果て最後甲府市和泉屋と申す料理店に酌婦となりまして相變らず多くの男を相手にふざけ散らしてゐました所がいつしか何人の胤を宿したとはなく姙娠の身となつたのですそこで先づ關係のある男に夫れ〳〵交渉をいたして見ましたが今までに一人ならず二人も三人も情夫がありましたのでいざとなるとドノ男も自分の胤であるとは承知してくれませず狹い土地とて噂がそれから〳〵と擴がりすつかり相手をなくして了いましたかうなると流石の私もほと〳〵困じ果てましたので何等目的もなく彷徨ひ出でまして東京へ參つたやうな次第であります云々

杉本ゆき

私は山梨縣南都留郡禾生村の産れであります父は杉本彦太郎と申し母は小林ゆきと申したのです私の幼少の頃は父が甲斐絹商をいたして居りましたので暮しは割合に樂でありましたたしか八才の時かと覺えてゐますが父が妾狂をいたし其結果母の居るにも拘はらず最早臨月になりつゝある妾のてつと申すものを家に連れ込んだのでありますこれが抑も家庭破壞の基でありました母も當時臨月でありましたが分娩後妾を家に連れ込むやうな父とは到底同棲することは絕對にいやだと申して赤兒を父に押しつけて里へ歸つて了いました父は

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

又これをよいことにして公然妾を本妻に直しまだ二十日と經たぬ赤兒に若干の金をつけて他に遣はしたのです間もなく妾も分娩致しましたが三月と經たぬ間に其子は死んだのです其後日の經つに從つて妾の素振りは以前と打つて變つて我儘三昧となり着物や食物はあらん限りの贅を盡しますので家計は日一日と傾く一方でありました懸うなると父と妾との爭は絶え間なく私と弟とは其間に挾つてそれは言ふに忍びませぬ程辛らい目に遇ふたのです私が十才のお正月でした叔母さんに連られて宿りに參つて歸つた時不圖叔母の話をいたしましたのがゆくりなくも妾の胸に強く響いたものと見えそんなに叔母さんがよいならば家に歸るには及ばないから何處へでも行くがよいとて其儘放逐されました私は止むなく再び叔母の家に戻つたのですそれから後といふものは伯父の家に二晩叔母の家に三晩親戚の家へ一晩といふやうにそれから／＼と宿り歩いて誰の手ともなしに育てられましたのです餘りに悲慘の運命に弄ばれましたので田舍ではありましたが性質は自然に阿婆擢れになつたのです十五才の秋のことでした一夜男が誘ふがまに／＼終に自ら貞操を蹂躙したのであります之れと申すも必竟は四圍の境遇からの業です其時離別した實母は已に他に嫁して子供の五人も産んでゐますのですからよし私が尋ねて參つた所で一食の馳走がやう／＼です實家は前にも申上げました通り妾に暴されてゐますのですから假令歸つて見た所で到底家は圓く治まる譯はないのです十七才の春でした切端詰つて田舍の料理店に酌婦となつたのですが今より思へばこれが第二の過ちでした多くのお客の玩弄物となつてゐます中私が十八才の夏でした土木請負業の伊藤信輝と申すものに身請されました其ものゝ妾となつたのです勿論年は十八九才も違ふのでありましたが先方の男の申さるゝには自分は獨身であるから兎に角一時妾になつてゝ貰いたい其中時機を見計つて本妻に取り直すからとの事でした私も先方の申すことを眞實と信じましたので承諾したのでした二ケ月たつた九月の上旬でありました突然伊藤の本妻と申すが暴れ込んで參つ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たので茲に大騷動を起しました揚句とう〳〵私と緣を切ることになり衣類四十餘點と現金七十圓とを貰ひまして私は身を退いたのであります、斯うなると實に恐ろしいものです酌婦生活に三年の月日を送りました私はこの金と衣類とを後生大事に致してゐます程堅氣にかへれません最う捨鉢の態度です今度は思ふ存分自分の思ふ男と面白おかしく遊んで見てやらうといふので衣類全部を賣却して金に換へ上京後二百圓足らずの金をば今日は芝居明日は料理店といふ風に瞬間に遣ひ果して了ふたのでありますそれで止むなく淺草千束町の某料理店に身を寄せて賤業に日を暮らしつゝある中病氣となりましたので抱主より放逐された次第でありま す父に疎とまれしか母に疎まれしか自らの運命に疎とまれしかは存じませんが父にして堅氣であつたならば斯くまで拙き運命には陷りますまいから今更私と同境遇にあるものを憐れまざるを得ません云々

女の弱さ

西川文子

脂肪氣の尠ない私は腫物と云ふものにさう苦しめられた事がない、處が此夏は俗に云ふ汗ものよりと云ふものが鼻の上、目の上、頰と所きらはず顏中の方々へ出來た、めまぐるしくもあり、熱もあり痛くてかなり苦しいが、苦しいよりも見ともないのに閉口させられた。

今日は誰方が見えても『病氣ですが誰方樣で何の御用です』と尋ねるやうにと命令た位氣が重かつた。

現代人はエゴイストであると云ふ事をさも自慢らしく云ふが、人間のエゴイストと云ふ事は、今更始まつたわけではなく昔からの持前である、でそれを其儘よしとしておいたならば、限りなく增長して行くので同

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

情とかおもひやりとか、我身つめつて人の痛さを知れと云ふことを敎へ込んだものであらう。處がどんなに敎へ込まれたからとて本能は本能である。自分の空腹は堪まらないが、他人の空腹は解らない、同情がないと云ふのではないが訴へられる間接の聽感と、直接の實感とはどうしても同じと云ふわけに行かない、それは知り樣がないからで無理はない。それほどに他人の事には無關心である、無知である、例へば私が姙娠してゐる事を知つてゐる人で、少し考へて見ればもはや分娩間近で出られない事を知つてゐなければならぬ人が手紙やハガキの序にちと遊びに來てくれと云つて來たりする。此方から考へると不思議でたまらないが、さう人の事は考へてゐられないから先方から云へば少しの不思議もない。

　私が今度に限つてこんな腫物が出來たのも、つまりはその爲めで、血液の循環が惡いからであらう。よくホクロが出來たり、アザが出來たり、ソバカスが出來る人もあるから。姙娠と云ふ事の女性一人の責任でない事は、云ふまでもない。無論その半分は男子にも責任のある事は誰しも承知してゐる事である。然かも肉體上の苦痛は女性丈けが負はねばならぬ、のみならず直接と間接との事は、どうかすると婦人のみの責のやうに感じさせられる、理屈から云へば自分にも責任がある、いたはらねばならぬと思ふ事の出來る男子でも不用意に『何だ見ともない體裁の惡い』と云はないものでもない。又甚しい人になつては『家内は不景氣でぐづ／＼してゐて見るも不愉快だ』などゝ自分勝手な事を云つて『どうしてそんなものゝおつきあいがしてゐられるものか』と避暑に出かけたり、遊びに出かけたりする。それでも無理もない事の樣に大してとがめるものもない。

　若し又未婚の男女ででもあつて見れば、無責任な男子は素知らぬ顏して逃げて了ふが、婦人は逃げる道がない。遂には行つまつて自殺する樣な事は往々ある。

　姙娠と云ふ事が婦人をどれ丈け弱身に陥れてゐるか知れない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私達の間では決してそんな遠慮も心配もない筈だのに『母さんが行かれないから』と云つて毎日の散歩でも差引かへたり、當然の思ひやりをされても私は非常に感謝の念が湧き、氣兼ねを感じる、一方は肉體の自由が少しも束縛されてゐないのだからどんなに不自由な事だらうと、却つて我儘勝手をする人の方が自然で道理ある樣に思はせられる迄に女の心は根底から弱められてゐる、長い年月の遺傳的慣習と云ふものは恐ろしいものである。

アイヌなどでも、妻が産褥にある間は、夫も同じく産褥に籠つてゐると云ふ事を聞いたが、それほど明白に共に產み出すものと云ふ事にしておかなければ野蠻人には責任が分らないのかも知れない。

では自分がそんなにエゴイストで冷淡からだらうと云はれたならば、私は決して自分はさうでない、より以上に思ひやりがあると思つてゐる癖に、人間の本能と云ふものを深く考へ信じてゐる自分は人には本能に打勝つ事の出來ぬ弱い〱ものゝ樣に思意されてならない。それでこの自分でさへきまりの惡い位腫物の出來た顔を體裁が惡いともいやだとも思はないで、そこまで散歩に行かう、かまふものか、桃の湯に行かうなどゝさそはれる時思はず感涙が催される。

人參精

を耳かきに一杯づゝ水にとかして、日に二三度づゝ飲むと大變精力がついて如何に勉强しても疲勞せぬとの評判故、私も試用しましたが、成程元氣がつきます、よつて本社で無量壽園製の人參精を取次致すことにしました。

十五入 六十錢　二十五入 一圓

精しくは廣告で見て下さい

タラコン湯

胃腸病の妙藥、殊に胃潰瘍によい同じ無量壽園製のタラコン湯も本社で取次します。

一週間分一圓（送料六錢）二週間分一圓九十錢（送料八錢海外卅錢）

ラヂウム含有鑛粉

僅か一圓廿錢で、半月分も得られ温泉に行くよりも效能があります、之れも本社で取次ます、詳細は太平洋會廣告で見て下さい。

書きごゝろ

東京市神田區鍋町七番地　筆墨硯問屋

江南堂　武居俊十郎氏製

の毛筆書きごゝろは本社で多年使用してますが全く天下一品です。之れも本社で取次を致します。

東京市本郷駒込動坂町三二七

新眞婦人社代理部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

夏子

小村夏子

十幾年振で校門を潜つた夏子は、まるつきり囚はれ人のやうに左右から寄り添ふ級友の肌いきれを感じつつ、晴れがましい廣間へ運ばれて來た。

誰でせう？誰？誰？といつたやうな衆目に、あはれの彼女は一層蒼白くなつて了つた。「矢張り來るのではなかつたのに」憶病な夏子は處女のやうに深い息をも吐きえず瞼をも伏せて窮屈そうに末席についた。

む丶Mだ、Mだ、Mさん！何といふ大きな音響、なつかしいS先生のお聲は鐘のやうに響いたけれども、夫れは鋭いものではなくて張り詰めた一座に弛みと和みとを與へたものと見える、稍くつろぎを見たのは夏子ひとりではなかつたらしい。

其翌日、御禮に參館つた幹事のTに、Mは今どうして居るのです。君知りませんか、事情を、え、君、と先生は仰有つたそうな罪さりどころない心地がする。すら〱と身の上が語りえられるものならば………切て一筆とも念ふのだけれど、今は其時でない。

いのちには光が要る、匂ひがいる、彼女はすなほな以前の心持で、渇仰の態度でそつと先生を仰ぎみた、『まあ！お白くおなり遊したこと』とAが私談いたのでまたはつとした。

貴嬢だけはちつとも變らない。と云はれて居るKだのAだの、でさへ猶大きな自然の前に引出してみるとあらそふことのできぬある深みを有ちえて居るのだもの………。

教へ子の標的とならせられるこの先生の御頭髪が色づかふとは、驚嘆するのではないのだけれども、誰も

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

かれも其事のみをいふ。

洵に修業者には人格が必要である。標的は旅人のからびた咽になくてならぬ泉であらう靈の我には慈雨が要る、光が要る。

○

若しも夏子が不憫がられるものならば、それは彼女の小過去が可哀想なのであつたのだ、今はすでに其深刻い劃線をともかくも越えて、疲勞ては居るけれども日は斜になつては居るけれども、方角だけは間違つて居ないのだと、彼女は思意て居るのである、微風は彼女の胸にかよひ、自由なる蒼穹は彼女のゆくてにひろがり擴つて居る。夏子はふと羊かひになつた夢を見たり、或時は洗濯女になつてみやうかとも、ひとり考へて居た。

現在は可哀想でも、氣の毒でも彼女はない寧ろ極めて自由な、羨まれてよい境遇に置かれて居るのである世の生活の保障をえて居られるある令夫人などの如くに、心にもない兩性問題を敎へ込まれたり、不斷の男女戰、といふよりは同性間のいやな思ひ……美しい小間使を雇入れた爲に外出が爲難くなるやうな……本當にくだらない迚も根本問題を考へるゆとりのないやうな女性に比べると、何といふ恩惠的な其日であらうぞ、夏子は靜に物思ひに耽る時を可なり多く有ちうる自由がある。但彼女は子供を喜ばしめん爲に其自由な時を、玉子を燒いたり、お芋をふかしたり、いろいろの草花で其狹隘な古い家を飾り立てる爲めに用ゐて居るのである。

夏子が若し、たゞのひとりであつたならば彼女は井戸端で立働く多くの時間を惜しんだ事であらう。そしてもつと讀書しもつと勉强し、手紙も書き、旅行もし然して親切な級友諸姉に心配をかけなかつたであらう。

けれども夏子は、何者にもかへ難いとして子供と棲んだ。それ故に彼女は讀書によい朝の數時間を、臺所の板間で消費することを悔いないのである、思索に適い間寂な深更にも彼女はまづ各兒の寢衣を改めて遣る事

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を怠らないのである。
たゞ恵まれた子供の爲めに、忠實なる夏子は、求めない報酬として健康をえて居る。そして日々に感謝しつゝある。自由にして感謝の生活―夏子は老いる事など恐れては居ぬなんの死をや……。
但、心がゝりな事をといへば。片親で育てる爲に、有望な彼らの華やかなるべきこの時代を暗く彩つて居る自身の不徳、其事だけである、物質上の欲を思ふ前に、子供についての願ひが大きすぎるほどあるのである。
無情なこの母をとがめ立てせぬのみか、たゞそれに似よう〳〵として居る、彼らの眞心にてらされた時、苦脳は一變して自己奉献となるのであつた。而も恐なる彼女の日々の行爲は、容易くそれを語りえぬのである。
現在に於ける悲哀みといへば、それが然うなのである。
夏子は自身の過去にみて、其子供らをどうか陰鬱な人に爲たくないと祈つて居る。だのに彼女自身は沈默勝ちなのである、快活といふものゝ匂ひは彼女の何處を尋てもえられない……かくては兒等を害ひはせぬか、彼らと離別れねばならぬ時は來ぬか、夏子が目を瞑つて美しい死の世界を瞶めて居る時、それらの子供達は相連れて喧嘩の裁決を請いに來る。
夏子は何かはしらず、吃驚して、甲乙兩者の柔い手を握つて雲の美麗しい海邊へいくのである彼らは最早仇敵では居ない、聲を揃へて歌ふて居る、彼女の前には漫々の水がある、秋近い深い空に、偉大の日の魂が燃えて居る。
ひた〳〵あげて來る滿潮時には、鯔が飛ぶ蝦がはねる、船がゆく帆がゆく、女子は冷たい井戸の水で靜に足を洗いで歸る。
斯うして彼女は學びつゝある、忍耐、謙抑、歌うたふこと。否、人間らしい、母らしいことを夏子は其子供達から學びつゝあるのであつた。
子のある女の如何に幸ひなるか、そして母を有する

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社會の如何ばかり望み多きかよ。女性は子供を持つ爲めに弱められ、そして强められる。彼女らをして落付いて哺乳せしめよ。ゆるやかなる子守唄を歌はしめよ安んじて愛兒と共に箸を執らしめよ。若き母親の黑髮や、前齒を以て、病兒の藥餌の料とさせてはならないそれは社會の不幸である。國の恥辱ではあるまいか。男の居る國の、女の同性の有る社會では斷じてそうした殘忍な事を傍觀して居てはならぬ筈だ、つまりは非常に不經濟な事柄だ、母性を侮辱するといふことは……
……。

○

毎年カラードの爲めに、盛夏の期を物好きとのみいふのではなくて、一入暑い都へ出ていくのであるが、其一週間の忍耐は、殘る暑さをすつと凌ぎよくして吳れるのである。これもある意味からいふ暑に勝つ方法の一つではあるまいか。

地方人が都會に出てまづ先に愕かせられるものは、都人殊に都會婦人の音調ではあるまいか。透明な、曲折のある、稍上つすべりな、然し艶麗なふるひをさへ帶びた、とにかくに極めて巧みな若い婦人の物言ふ態度はわれらには眞似のできぬわざである。(決して眞似をしやうとは思はぬけれども) 其技巧的なのには感心して了ふ。然しわれらの心を語るには、あゝした音聲を用ゐる要はないと思つた、汐風のふくこの森近い家では梟と語りあふ方が氣兼ねがないと念つた。都會の婦人にはまた地方人の粗野なかみかたちが不思議に映じたことであらう。(八月十四日)

封筒の整理

江原素六

「私は毎朝十分づゝ捧げて知人朋友または其他から來る書狀の封筒の整理をします、表面は人の名前が記るされてありますからまとめて燒き捨てますが、中の色紙の分は一つ／＼廣げて紙撚て綴ぢます、そして救世軍の婦人ホームに送ります、ホームではその紙を使ふそうです、たまるもので一度に持つて歸れぬ位になる事もあります、今も隨分たまつて居ますから、こゝの婦人ホームにも寄附しませう、私は旅舍やに宿泊した時、歸りにくれる手拭は皆とつておきます、溜ると寄附します、それも使へばついむだにしますから」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

王女の死

（口繪の說明）

早川桂太郎

まちどうしい狩りの來ぬ中に
まちもうけぬ秋風はおとづれる
羊のまきば小島のはやし
くさきの葉は枯れてこんじきとなり
金色の葉わ行方に迷うて地に落ちる
蟋蟀はやがてその妙なる音をひそめ
蜜蜂はすでに冬の糧を運んでしまつた

かなたの森の下蔭に
かすけき思をかなづるは
ウオルレラムのよき竪琴

チツリンギヤの谿のそこ路
涸れ盡きぬ水は岩間を縫うて流れ
紺碧の淵となりうたかたの瀨となる
風雨春秋幾千年
老木の幹は巨人の如くそばたつ
はるかに限をうつせば
うすらつめたき太陽のかなしさ
ヘルゼルの山は淡くかげろい

ワルトブルクの砦は死のようにもだす

かなたの森の下かげに
しづけき思を奏づるは
ウオルフラムのよき竪琴

わが王女エリザベツトは
今日もやさしき姿をここに運んで來た
玉のかんばせ色あせて
深き憂にくもるまなざし
よろめき步むいたいけな爪先に
いかなるわざわいの糸が纏るのであらうか
王女はひざまづき祈る
吹く風もしばらく吐息をおさめ
澄み渡る靑空もひくく垂れむばかり
天地寂たるただ中に
わななく王女の眞心は神神しい

かなたの森の下かげに
ゆかしき思をかなづるは
ウオルフラムのよき竪琴

わが王女エリザベツトが
無垢の熱愛を捧げたタンホイゼルは
今巡禮の忍苦をうくる罪びとである

タンホイゼルの秘密がやぶれたとき
王女の悲はどんなであつたらうか
けれども王女は怒らなかつた
敢て猛り狂う騎士たちの白刄をかいくぐり
戰きひざまづくタンホイゼルをかばうたので
ある
その時王女にいい知れぬ憐憫が起つた
廣大なる慈悲の心をもつて
このあはれなる罪人を救はんとする
王女はすでに戀になやむ乙女ではなく
神の御心を傳へんとする天使である

かなたの森の下かげに
くろしき思を奏るは
ウオルフラムのよき竪琴

積る罪障の消滅を願うて
ロウマ法王の演罪をうけんがために
花おぼろ四月も終るころほひ
信仰厚き巡禮の一隊は
アルプスの峻嶺を越へて遠くイタリイにむか
つた
あはれなる伶人タンホイゼルは
淫蕩なるヴイナスベルの思出
悔恨と羞恥とにもだへつつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

逃る可きただ一すぢの路として
おくればせに巡禮の列に加はつたのである

かなたの森の下陰に
せつなき思を奏づるは
ウオルフラムのよき堅琴

花實を結んで夏となる
雲の叢起きてはまたくづれ
河の水はいくたびか溢れて岸をひたした
農夫が汗の麥畑
色づき行く葡萄の實にくらべても
巡禮のたよりわ更にない
はるかに國境のかなたを望んで
人々はただ眷屬の身安かれといのる

かなたの森の下かげに
かなしき思を奏づるは
ウオルフラムのよき堅琴

王女の一日わはなはだ永かつた
朝（あした）に白露をふんで夕の星を思ひ
夕のふしどに入つてまた曉（あかつき）の太陽を慕う
なげき日日に加はりおとろへ衣々にまさると
は云へ

忘るるひまなきタンホイゼル
あはれ神よ
武士道を忘れ魔酒に醉いしれ
わが眞心を傷つけし放浪者
タンホイゼルに幸をたれたまへ
天地寂たるただ中に
王女ひれふしてかく祈るとき
吹く風もしはらく吐息をおさめ
うすれ行く空もひくくたれ下る

かなたの森の下かげに
けだかき思を奏るは
ウオルフラムのよき堅琴

秋のひざし漸く傾けは
ヘルゼルの山は茜色
ワルトブルクの砦は黄金色
落葉枯葉水のせせらぎ
照りはゆる今日一日の名殘り
立木の影は長くうれつて
紫の帶を岩間によこたへる
靜に耳をそば立つれば
梢にささやく風の音か
消ゆるともなき夢のまどわしか
かすかにきこゆる頌歌のひびきは

かなたの森の下かげに
うれしき思を奏づるは
ウオルフラムのよき堅琴

巡禮が歸つたのだ
まちに待つた巡禮の一隊が
罪の重荷をゆるされて
身も心もかろくかろく爽に
イタリイの都から歸つて來たのだ
淨められた伶人タンホイゼルも
恐らくこのむれの中に居るであらう
王女の顔は熱してはれやかに
眼はかがやいてはるかなる音にききとれる

かなたの森の下かげに
みだるる思を奏づるは
ウオルフラムのよき堅琴

入日次第にうすつき
頌歌は漸く近づく
木の間を縫うて紫色の影ふたつみつ
長き旅路につかれたる通路は
つきへらされた聖杖を力に王女の前を通つて
行く
王女の眼はかがやく

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

十人二十人三十人
そくそくとして歩む老弱の一列
幾十人を數うとも
まちもうけたる姿は見えなかつた
王女の眼はくもる
あはれメンホイセルは赦されなかつたのか

かなたの森の下かげに
消行く思を奏づるに
ウオルフラムのよき堅琴

入日は全く光芒をおさめ
悲しき涙の星がふたつみつ
つめたき大空にまたたく
とりのこされたる一人二人の
重たき足音がはるかに消去つても
王女は獨偶像のように立ちつくす
眼はかはきてひかりなく
筋肉と云う筋肉は盡く弛緩し
血管と云う血管は盡く硬化したのであらう
メンホイセルの姿はついに見えなかつた
あはれメンホイセルはゆるされなかつたのか

かなたの森の下蔭に
くるおしき思を奏づるに
ウオルフラムのよき堅琴

星のまなこはあやしく冴渡り
草木の影もすごくきわだつ
もうメンホイゼルは永久に歸らないのだ
王女わひざまづき祈る氣力もなかつた
いとはしき世わづらはしき世に
今は何をたのしみ永らうべき
絶望の心と溷ばいのむくろと
王女はいきたへたへにうづくまる

かなたの森の下かげに
絶望の思をかなづるは
ウオルフラムのよき堅琴

星のまつげは靜にまわつて渦をゑがき
渦は流れてまた大なる輪となる
夢うつつとりとめもなき面持に
王女はこの奇しき光羣をながめた
おだやかなる光の渦は次第に垂れ下り
王女の顏となく胸となく腰となく
ありとも見えぬ幻の雰圍氣をつくる
幻の雰圍氣はゆるくめぐりて
あらゆるおそれとなやみをとかしさる
かくて新しき生命の力に
いづくよりともなく王女の胸にみなぎりあふ
れた
靜に洩らす感謝の吐息
今王女の靈魂は自由である

かなたの森の下かげに
あやしき思を奏づるは
ウオルフラムのよき堅琴

天地寂たるただ中に
王女のむくろは靜に横たはる
うらわかき己が命をすてて
ただ罪人ゆるされよといのる
けだかき王女の心根よ
メンホイゼルは今いづくにさまよう
王女わかくて死んだ
けれども王女の靈魂は永く亡びぬであらう

かなたの森の下かげに
ウオルフラムのよき堅琴は
たへだへのしらべを猶も續くる

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

靜岡より

黒百合

新盆の十三日五才の男兒今日は父さんが來るとて朝より大よろこび、父さんお出でたらお小使を貰ふ、あれも見せ樣などゝまつ樣のしほらしいとも、いぢらしいとも、側に見る目の氣の毒で堪らぬ。やがて茄子の牛に胡瓜の馬が作られて佛前に供へられると、父さんは馬に乘つて牛を引いて來るの、もう出かけたかしら、折から新築の家に移つた兒心には父さん此の家を知つて居るかしらん、道がわかるかと母親にたづねる樣、兒は只父來ると思ひてよろこびまつのなれど、聞く母の心はいかにとまめ〳〵しく佛の供養につとめ居らるゝ母人を思ふと同時に、其兒が持つ程の信念を持つたらと無邪氣の兒心がうらやましく思はれた。（七月十三日）

職業に貴賤はない只其人々の有つ心得にあるのだと思はない事はないが、とかく俗人の目にはひく人よりも乘る人の方が偉く見えるのは困つたもの。

今日、かれてこん意にする人力屋の主人、兄妹の二人の子供を小さつぱりと裝はせ、自分も常には似ずきちんと折目正しい衣類をつけて、子供がせはになるとて禮に來てのはなしに、世間に妻子を養ふ事が出來ないと云ふものがあるが全く心がけが足らないからである、一生懸命に身を愼しんで働けば車ひいても養なへない事はないと、そして其人は酒は無論煙草も口にせぬのである、それ程故妻女も一生懸命共鳴して家事にいそしむ故、全く平和な家庭を營んで居るのである。かゝる人の車に乘りながらなほ家庭内火の車を押す人あるなさけなからずや。（七月十四日）

男女學生の最も樂しい時期が來た、暑中休日、ア、自分も同じく樂しい事は數多く重れても、矢張り寄生休日程樂しいものはない、わけても骨肉の家に歸へるのである、もう十日、もう五日、新眞婦人愛讀者方は此の時期に何をせられんと計畫せらるゝのであらふか、九月號が今から樂しみである。

疫痢が流行るあすこの兒も死んだ隣家の兒もと、恐れおのゝきながら、すまして不消化の果物を愛兒に與へる母親がある情ない事ではありませんか。

年は七十四になつても、八十になつても、活動家は若者も三舍をさける程な元氣で此の暑氣もおそれず盛に働いて居られる、人の生命は年齡ではない、爲すその仕事である、働きたいと思つた生命ある働か爲したいと思つた。

田舍に靜かに靜して居つては活動して居るつもりでも自然呑氣至極になり行くものである、今頃東都の暑さことに人々の活動ぶり、いきれる程であらふか、うらやましくもある、同じ其空氣内にもみかへしもみかへされながら働き得られたら。

練兵所近く背田にとりかこまれて住んだ身は毎日兵士のラッパとかへるの聲のみになれて居つたのに、今は街端れながら市内に移つてからは絶てと云つてもよい位の三絃の音うたひの聲に耳新らしく、考へる事も忘れて聞ほれる事が度々あるのである。人の氣分は周圍によるとは僞りでない。それにつけても住所は實に大切である、古い事は皆新しいのであるとは此の事によつても知らるゝ。

隣園の芳菜と云へど我が事はいつも不足に見えるもの、しかしそれを甘く調和して他人の事もうらやむと云ふと語へいかあれど、うらやむ程で自分の爲す事を樂しく爲すならなか〳〵味のある事ならんなど思ひながら十四日の夕北の窓にむかひ龍爪山をながめつゝ。

暑さ當りに苦められて三日ばかりの絶食、てる日の中は外出もならず讀書も倦みたり、多忙のまゝに無音に過ごせし友のもとに詑狀を心の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

まゝに認め得らるゝうれしさ、病臥も時には感謝の材料と苦しまぎれのたは言のみにもあらず（七月二十六日）

今日もまた少し曇つたな、また暑いのであらふと思ひながらなる可く早くと朝の間に出かけた練兵場へとさしかゝると、もう疾くにから練兵が始まつて居る、早くと云つても九時、これと云ふ立木もない原の中、かけ走やら、打ち方のけいこか地上へべつたりと腹ばいになつて銃をむける様子、思はずアゝ氣の毒、何の爲めのけいこかと人類の有様を思はしめられた。

若かつた昔は兵士の凡てが唯勇ましくて人事としても誇りがに思へたのに、今の今はそれが冷汗を催さしめるもとゝなつた、あながち年とつて氣分がおとろへたのだとも思はれぬ、汗水づくになつて一心に練兵する人々の努力に對して靜かに感謝とまた詫言とを心のなかにさゝやいた。知るや人弱くなつたのであらうか、おとろへたのであらふか。

万家福楽 五羽養鷄

（白松鷄庵氏著）

空地が一坪、二坪あれば出來て、餌料としては一日五羽で一錢五厘位しかゝらず。手數も入らずに、利益を目的にすれば、一年二十圓は樂に得られ、若し又鷄卵と鷄肉を自家用とするを目的とせば、之れによつて、ドレ位其の食卓を豊富にすることが出來るか知れぬと云ふことを懇々と説いて、其の飼育に關する細々の注意までもして、各家庭の御婦人方に、五羽養鷄の實行をすゝめられたものであります、皆様に斯書の一讀を希望します（四十錢　東京京橋區南傳馬町二丁目　有隣堂書店）

熱罵冷評

（高島米峯氏著）

米峯先生の、諸方での演説筆記や、諸雜誌への寄稿を集めて出版したものに、既に店頭禪、噴火口、長廣舌、悪戯、廿歳前後主義あり、今又ソレに一を加へたのである。米峯先生の文が諸方で歡迎さるゝ所以のものは、多少の皮肉と多少の愛嬌とを含める輕妙な文の中に健實な思想と、圓滿な常識とが盛られてあるからでしよう。此の書の中では、「お客なるものを罵る」「セルの袴」「救世軍大佐山室軍平君の夫人」「慈心僧都」などを、面白く讀みました（定價一圓、東京小石川區原町六　丙午出版社）

犬養毅とロイド・ジヨージ

（植原悦二郎氏著）

犬養氏が臨時外交調査會へ入つたと云ふので世間では直ちに氏を目して、閥族に降參したものとなし、冷評惡罵するものが多い。此の書は斯かる俗論に反對して、犬養氏の心事を説いたものである。一世の俗論を氣にしない所に反て男子の眞意氣あり、何時もお向の喝采を氣にして居る樣なものは俗物である。（三十五錢　東京本郷駒込神明町三三八　猶興社）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自分で注意することの出來る樣になつてからの健康法

高野太吉翁談

之れまでは、母の力で育つ所の狀況をお話したが、之れからは自分で注意することの出來る樣になつてからの健康法に就て、お話しましよう。

さて人間の身體と云ふものは、今は幼年、今は青年今は壯年、又今は老年であるとかなぞと考へることの出來ないものである。吾々の身體の組織には絕へず新陳代謝が行はれて居るから、昨年の病氣が今年もくつ付いてると云ふワケでなく、昨年海水浴に行つたから今年は行かなくてもよいと云ふワケのものではない。一度び病氣をしても全快せば、立派になる。吾々の身體は何時も新しいと思はねば駄目である。

イクラ青年の時に丈夫でも生涯健康であると安心出來ぬ。其の代り小供の時には病身であつても、其の養生如何によつては、壯年になつて丈夫になれぬとは限らない。

ソレ丈け變化の激しいものであることを知らぬと、過ちをする。生きてる間は、一年は愚か一時間、一分一秒の爭ひを以て生存し、實に出る息と、入る息の間を生存す、一呼吸の如何が、生命に關係することを忘れてはならぬ。

○

細かく云へば右の如くであるが、大體に於て心得て置かねばならぬのは、夏の身體と冬の身體とは違ふと云ふことである。

夏は消化器の機能が鈍つて居る、何ぜソウなるかと云ふに、夏は身體の表面が熱するから血液が多く表面に集まり、自然內臟へ行く血液が少なくなるからであ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。次には血管が膨脹するばかりでなく、蒸發氣が立ち、血壓が下るからである。又夏分は冬分よりも濕度高き食物を要するのであるに、氷を飲んだり冷やしたものを食べたりするからである。されば夏は冷めたいものを腹へ入れてはならぬ、之れ位消化の上に不利益なものはない。併し蒸發氣は立つから、水分を餘計にとることは必要であるが「ソレも水や氷から取らずに水分を餘計に含める野菜や菓物から取るとよい。殊に小供には果物が必要である、然かるに親が餘りに構ひ過ぎる結果か、都會の小供の中には十四五歳になつても桃を食つたことがないと云ふものが、珍らしくないから驚く。

○

私は夏、扇子を持たぬ、團扇も持たぬ、私の身邊にはソンナものは一つも置いてない。避暑とか、避寒とかは私は最もキライである。夏の暑さを避け、冬の寒さを避ける人は、健康な人とは云へない。殊に私の唱道して居るのは、夏の朝の、四時頃より七時頃までの空氣に浴することは、一年中得がたき快味であると云ふことである。然かるに八時が鳴ても戸の開かぬ人の多いのは、殘念なことである。飯を食ふにしても、朝早くから食べる、朝が遲いから飯も甘からず、終日暑さにも苦しまねばならぬのである。其の上に朝遲く食べて十二時に又晝飯を食べるから晝飯も又甘くないのである。如何に健康な身體でもソウ朝飯と晝飯の間が短かくては消化するものではない。夕食から翌朝の朝飯まで十二三時間も胃腸を休ませて置くかと思へば、朝飯と晝飯との間は二三時間である、コンナことでは誰でも健康を害するから、朝寢の止むを得ない職業の人、例へば俳優の樣に朝十時になつても起きられぬ樣なものは、晝飯は二時か三時に食べる樣にすればよろしいのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

勝腹術

革新淘宮術會長
竹内師水氏夫人　竹内千代

菊一幸と云ふ御婦人が、昨年十一月に神戸から上京して來て、私共を訪ねて下され、此の方の習得せられた勝腹術で、私の持病の喘息がスウッかり癒つて仕舞ひました。

私は驚きと嬉しさの餘り、病人を見ると菊一さんの事をお話して、彼の方に御願せよとすゝめましたが、何れも不思議に全快しました。ソレで私は内々、此の術を習いたいものと思つて居ると、所謂渡りに船とやらで、菊一さんから、私一人ではどうにもしようがないから、貴女も人助けの爲めに此の術を習つて置いて下さいと云はれました。私は悦こんでソレでは敎へて下さいとお願し、今では私もドウやら人の病氣も癒せる様になりました。

○

菊一さんの上京されたのは、昨年十一月でしたが、東京で治療を始められたのは、本年の二月からです。されば東京では、治療を始めてから、まだやつと半年です、ソレで居て、ナカ〱澤山の人の病氣を癒されて居ります。其の中の二三を申上げようならば、高田商會の支配人田口俵三郎氏夫人の病氣、同令孃（小供の時から足の具合の惡しかりしを）、及び同老母（神經痛）の病氣を癒しました。札幌ビールの監査役中田慶三郎氏夫人の胃腑の下垂病を三週間で全快せしめました。京橋にある煉瓦會社の伊藤支配人の夫人、脊骨が曲りて數年仰臥することの出來ざりしを、すつかり癒しました。又書肆永樂堂主人の神經痛、同夫人の冷性を癒しました。

一ち一ちお名前は覺へて居ませんが、子のなき人の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

腹をよくして子を生むことの出來る樣にし、腦病、脚氣を幾人も癒し、中風の人も癒し、胃癌を癒した例さへあります。

○

菊一さんは、泉州境市の生れですが、結婚されてからは、神戸に出て貿易商をされて居たのですが、夫に先立れて今は未亡人です。さて今より九年前、菊一さんは子宮病にかゝりて、一旦は醫師にも見放されしものを、神戸の伊藤と云ふ淘宮の先生の術によりて救はれました。此の伊藤先生は、今から十九年前に或人に肺病を救はれたのが元で、斯術を習得するに至つたものであるが、菊一さんも自分の病氣の救はれた所から斯術習得の念を起し、伊藤先生に尋ね〳〵して、實地に之れをあらゆる病人に試みて、遂に其の秘訣を握られたのぢやソウです。

○

菊一さんの治療を受けし人の中に、斯術を許して

手の入れ方は、柔道家の如く、腹のもみ方は漢法醫の如し

と云はれた方がありますが、云はゞ先づソウ云つた風のものです。首筋から足の先まで、要所〳〵へ手を入れて、根本的に血液の循環をよくしてかゝるから、病氣を癒すのでなく自然に病氣の方で退散して仕舞ふのです。されば斯術は萬病にきくのであつて、或種の病氣のみによいと云ふ樣なものではありません。

○

最後に尚ほ一言を添へて置きます。淘宮の中に「病人をつかまへて、淘げよと云つた所で駄目である、病人は身體から癒してかゝらねばならぬ」と云ふ一派がありますが、此の派で「お勝腹」と名づけて居た術を、伊藤さんが習得し、ソレを菊一さんが學びて、廣く一般の病人を救はんとて、今回上京、斯術を施されて居るのであります。

難病の方がありましたら、此の勝腹術を受けて見てごらんなさい。

(菊一さんの住所は、麴町區飯田町六丁目十六です)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

醍醐味と醍醐素

昨年の十一月頃から、三島海雲と云ふ人が醍醐味と云ふものを賣り出し、此の頃は又醍醐素と云ふものも賣り出して居ります。一體醍醐味や醍醐素は、評判の樣に滋養强壯料として價値あるものなのでしようか。讀者から質問があつたから、一寸誌して置きます。

○

三島海雲氏は京都は本願寺文學寮の出身者で今より十數年前半ば宗敎的の考へ、半ば經濟的の考から、蒙古で羊を飼つて、羊毛を日本へ供給しようとの志を立て、蒙古に赴き、同地で牧場經營中計らずも蒙古人の愛用せる醍醐味を知り、其の製法をも學び、又之れを自分及び自分の家族に試みて、何れも强壯體となりしかば、遂に歸りて、之れを日本人間に廣めんとするに至られたのです。

○

ヨーグルトは、牛乳の中で乳酸菌を育てたものであつて、歐米諸學者の研究によれば、之れには、左の如き效能があるソウです。

(一)ヨーグルトを飲用すると、腸中の黴菌が萬分の二三に減少す。

(二)ヨーグルト中の乳酸菌は他の有害なる黴菌を撲滅する力を有つて居る。

(三)ヨーグルトは腎臟を調節し、從て利尿便通を適度ならしめる。

醍醐味は云はゞヨーグルトとバタとを兼ねた樣なものであつて、其の效力ヨーグルトに七八倍し、而かも其の味はヨーグルトより餘程よろしいです。

○

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

日本人も知らず識らず乳酸菌を食べて來て居る。即ち彼の糠味噌の中には乳酸菌が居るのです。けれども之れは空中の乳酸菌が偶然糠味噌の中へ入つて育つたものに過ぎないから理想的ではありません。ソレで日本人の身體を大に強壯にし、其の壽命を長からしむる爲めには、乳酸菌を日本化し、家庭化さねばならぬとは、三島氏の主張である。此の主張から氏は醍醐素と云ふものをも工夫し、醍醐味なり、醍醐素なりの用法に就き左の如く、云はれて居ます。

(一)いろ〳〵の副食物卽ち漬物、魚鳥獸の肉類野菜にかけて用ひます此の方法に慣れない方は砂糖と三四倍の白湯とを入れて食後に二三匙用ひます段々此の味に慣れますと副食物の總てにかけ、其殘りの汁を御飯にかけて召し上れる樣になります。此で御飯を頂いた後の腹具合は格別であります。三四日にして先づ腸と胃の具合がよくなります。

(二)料理の酢に代用して實に藥餌と實用と一擧兩得であります。白(ホワイト)ソース、サラダ、などに使つても結構ですし、瓜もみ酢あへ、その他の酢のものにも宜しうございます。

(三)漬物の製造法　米糠を炒らずに三升とダイゴ素五合乃至一升と鹽三合とを交ぜてよくかきまわして直ぐに野菜をつけます。寒中と雖も京都の名產スグキといふ漬物よりより以上の理想的なのが出來ます。

兎に角**ダイゴ味**でも**ダイゴ素**でも四合一壜で効果が分るとのことだから、健康を愛し、強壯を欲する人々に、試用を御すゝめします。

ダイゴ味	四合七日分	一圓五十錢	送料十二錢
ダイゴ素	四合約十日内外服用分	五十錢	送料十二錢

日本キモノと米國婦人
(櫻田學士の歸朝土產)

醫學士櫻田十次郎氏は約二ヶ月の亞米利加漫遊を終て此程歸朝した、其土產談に曰く『米國は戰爭景氣で上下とも凄い勢ひだが汽車中などの話では日本は大儲けをしたらう抔と自分の成金を棚に上げて頻に我國の噂をしてゐる。

汽車中で賣つてゐる夏蜜柑は半分で四十錢、鮎のフライが二尾で一圓四十錢、牛のヒレ肉一人前三圓以上など一寸驚かされたが勿論これより廉いものもあるのである、此暑さに絹地の薄衣を着て居り乍ら狐の毛皮を脊中に擔ふと云ふ妙なことが婦人界に流行してゐる。

夫れに日本キモノの流行は素晴しいもので安月給取の細君までが爭つてキモノを着てゐる、其他種々の日本品が非常に好まれてゐるのを見て愉快でならなかつた、彼地の家庭で電氣を能く利用してゐる事は驚くべき程で、一膳飯屋で食パンを切るのにも電氣仕掛の機械を用ふると云ふ風なのである。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ポプラの葉影

村木きよ

藻岩山の姿が段々と褐色に變つて、大正四年の札幌の秋は日毎に深んだ。長い冬を思はせる、暗い日が毎日續いた。千代は針持つ手をふつと止めては、沈鬱な空の下を、思ひ出した樣に、ひゆうひゆうと店の前の並木の落葉を捲き上げる風を、茫乎と眺めてゐた。

こんな淋しい秋は初めてだ。

彼女は斯ふ獨言ながら涙ぐんだ。

此迄の淋しい生活に馴れた千代も、二年來の周章ただしい日が過ぎ去つて、澱み勝な心に迎へた此秋は、未だ曾つて覺のない深い淋しさに泣いた。千代が此所へ移轉て來たのは、春が來て漸く街が乾いた許りの、四月初の日であつた。××通りの、南に向つた、小高くなつた店の前に、若い「あかしや」が立ち竝んでゐるがらんとした彼女の店は、街の中で一番目立つて貧しげに見えた。覺束ない手付で千代の燒く、南部せんべいを入れた、流行をくれの赭色をした、五枚硝子の菓子臺が左側に寄つて立つてゐた、右に据た、大きな、剝げた卓の上には、孝右衞門が田舍から買集めて來る鷄卵が選り分けて二籃三籃上つてゐた、父親の孝右衞門は七十二才の年寄で、體は達者だけれども、耳がひどく遠くなつてゐた、雪がちらちらと降り出した十一月の初め、長く××神社に籠つてゐた母の絹が歸つて來た、七十に間もない絹は、體が毎時も弱くて、腰が二つに曲つて居た。

千代の古巣は、其處から一里近くある東北の小村にあつた。川に沿ふた、高い邸の眺めのよい家を圍んで林檎樹が林をなしてゐた。裏の小坂を下ると流に沿ふて、肥えた廣い野菜畑があつた。千代は其家で生れ其

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家で生長した。姉妹の中で一番體が弱かつた千代は、一番其家に親しみ、そしてどふしてもなくてはならぬものとして愛してゐた。家も屋敷も年の中に、賣り拂らはなければならなくなつた事を、父に聞かされた時千代の悲しみは、只苦るしい歎きであつた。家を賣り拂つた後、父母は×××の本田に引取られる事に決定つてゐた。迎に來た本田に連れらて、狩太驛から消え殘つてる雪の上を、橇に搖れながら、五里の山路を××都街の美喜の家に着いたのは大正二年三月末の或る暗い宵であつた。孝右衛門は本田へ引出物として、借金を返した後の少なからぬ殘金を所持して居た、本田は二番娘の美喜の夫で、二年前此處へ移轉つて來てささやかな藥店を開いてゐた、不運は段々と重なつた。着した翌日美喜が高度の熱を發した。十年前に病んだ助膜炎が、折柄の寒に再發したのであつた。本田が村元家へ入籍に付て、金の受渡しに付いて、未だ年の若い義兄と父との間に、激しい爭の起つたのは、裏の山の綠が朝毎に濃くなる七月の初めであつた。父と義兄とは終に解け合ふ事が出來なかつた。何處迄も付き絡ふ家庭の不和に苦悶し、義兄の心情を厭はしく激した余り、其時千代は重い病床に臥した、病氣の少し治るのを待ち、扎幌へ立つたのは、夏も終りに近づいた九月の末であつた。札幌へ着いたものの今は歸るべき家はなかつた。知人の世話で一先づ落付いたものの、千代は何か小商でもして生活を助け度いと、父と一緒に毎日〳〵適當な家を探して歩いた。世馴れない千代は只焦る許りで、雪が眞白に積つても何の方法も付かなかつた。

千代の體が其頃又惡くなつた。歩む度に左の腹が痛んで幾日待つても治らなかつた、千代は此頃北の町端に住んでゐた、一年は瞬く間に過ぎ去つたけれど、昨日の樣に分明と頭に殘つてゐる其の日は十二月の十五日であつた、彼女の住居から五町程町へ出て來ると或る左角に、白いペンキでぬつた上へ。××病院と黒々と太く書いた案内杭が立つてゐた、千代は其處へ行くのは初めてであつた。廣い野の一端となつてる、町端の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

左側に灰色の建物が數軒立ち並んで見えた。千代は細體を黑つぽい圍卷で包んで、小腰をかゞめながら靜に此方へ歩いて行つた、街から二町程引込んで居る、雪路は數人の踏んだ足跡がある許りで、昨夜降つた雪が眞白に積つて居た、東に面した玄關を上ると直ぐ左側に控室の扉があつた。控室は狹くて暗かつた。室の西側に据てある小さい暖爐を圍んで二三人の男が立つて居た、東の窓際に鼻の長い顏の長い若い事務員の男が小さい卓を控へて掛けて居た。千代は圍卷を椅子の上へ置いて、體を曲げて片手で左の腹を抑へながら事務員の前へ寄つて行つた。未だ冷め切らない湯上りの色が、白い彼女の顏に美しく浮んでゐた、看護服の上へ清淨な頭巾を、据迄垂した碧眼の美しい尼僧が、奥の室から代る代る控室へ入つて來た。どこからか哀しい訴へる樣な、なだらかな調子の外國語が聞え、一調毎に續いて繰り返す今度は日本の少女らしい聲が分明と聞えて來た、千代は直ぐ呼れて奥の室へ入つて行つた一寸まごつきながら椅子に掛けた千代は、きつと唇を引締めて、近眼のしわめる癖のある目を、柔しく輝やかせて靜に室内を見廻した。何の裝飾のない狹い室の東の窓の下に、寢臺が黑く横つてゐた、右方の扉が開けて、次の室で尼僧が二三人立ち働いて居た、東南の窓を通して、低く垂れ下つた灰色の空の下から、薄暗い雪の野が際涯もなく望れた、卓上の書架の上に、すがれた杉の小枝を付けた白木の十字架がかかつてあつた。

どふしました。

低い確りした聲が直ぐ聞えた。

千代は何心なく十字架をあはいで居たが、其のどこでも未だ曾つて聞えた事のない、深い優しい響に、はつと驚いて向き直つた。其は丁度、北風凍る荒野の中で、見出した只一軒の家の扉から流れ出る甘い暖かい空氣の樣に、深い暖い優しい響きであつた。其暖い響を見出だそうとして、千代は周章てて自分の前に掛けてる人に瞳を注いだ、血の氣の無いでつふりした四十前後に見える男が、右手の卓上の紙へ視線を移さう

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

として居るのが、彼女の目に殘つた。此人のとこから千代は剎那に斯ふ思ひながら、急いで見下した。とたんぶるぶると引釣る樣に動いてる唇が目に止まつた其一瞬間はつと胸を突れた、千代の心へぶるぶると落ちた者があつた。

はつと俯垂れて、すつくと立ち止り重い歩みのすりつはの音を殘して、廊下に其の姿が見えずなる迄千代は不思議な胸騷を感じながら凝と見守つてゐた。其晩睡に落ち樣とする千代の頭を優しい聲が一夜中掻き亂した翌日の千代は、不思議にも活氣付いた心が、或方面へ力強く步み出さうとしてゐるを直ぐ覺つた、彼女は、終日奥の炬燵へ兩肘凭せて、考へに沈んで居た。

どふしてもこの心はこの儘にして置れない、取つてしまわなければならない。

斯ふ思ひながら、千代は其の面影をむしり取らうとした、早くも胸に深く根を下した樣な不思議な面影は中々むしり取れさうにもなかつた。長い艱難の日をとぼ〳〵と步む、自分の姿が分明と心に見えた。

千代は何となく翌朝を待ちかねた。彼女は翌朝いそ〳〵として控室へ入つた。其朝控室には數人の男女が掛けてゐた。暫時すると其人は奥から出て來て、暖爐の前へ立つて煙を吸ひ初めた。

村森さんどふですか。

突然我名を呼れて、千代ははつと胸を騷がした。其人から斯ふした言葉を掛けられたのは千代には意外なそして喜びであつた。千代は昨日と變る勝れて血色のよい赤い顏を見た、目を臥せたまま、敷島の煙を立ててる人の、眉の邊に現れて居る表情が、彼女の心を裏切る樣な、不純なささやきを彼女の心に起さした、數日經つた千代は日毎に變つてゆく自分を見た。千代はいつも靜な省み勝の自分のどこに斯した烈しい「こころ」は潛んで居たかと驚いて自分を見守つた。或る時は其の人に怪しい術をかけられたのではないかと恐れ迷つた。然した烈しい恐疑惑にもかかわらず人を愛さうと熱するこころは、生々として暖い力強い喜を彼の女の胸へもたらした。千代は其の人に付て少も知らなか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

つた。數日の後千代はふつと其の人に妻子がある事を聞た。或る朝晴々した太陽が控室の中に迄輝いたゐた千代は青ざめた顔を俯向たまま控室の暗い角に腰かけてゐた。非常な勢で生長しようとする情を殺した彼女は、引締つた沈んだ顔をして凝と自分を見詰て居た。今一度見る事を自分に許して今日限りと千代は此處へ來たのであつた。其の人は例の樣に、煖爐の前に立つて莨を吸つてゐた、又しても目の前に立つてる男に走らうとする心が堪へがたく恥しく淺間しく思へた。

村森さんどうですか。

千代ははつと驚いて顔を上げた。いつの間にか煙草を吸ひ終へた人が例の樣に俯向たまま自分に向つて立つて居た。其の日の其の人の優しい言葉燃え付く樣な熱した切れ長い大きい目が又しつかりと千代の心を捕へた。其の人はいつも俯向ていつも靜であつた。時々其の冷靜な態度を突破つて迸しる樣な燃る目を振向た千代はいつも考へ深さうな目で靜に男を見た。血色のよい男の顔が少し長く見えて來た。堅く引締つた頰にどことなくやつれが見えた。千代は數日見なかつた後非常な苦るしみを感じ乍ら又控室へ入つた。男の目にもどことなくあはてた樣子が見えた。

村森さんまだ全然快ませんからもう少しお出なさい

千代は低く斯う云ふ男の言葉を一言も洩らさじと嬉しく聞た。彼の女は來た時の苦しみを忘れた樣にいそいそとして歸つた。千代の顔は日増にやつれを見せた彼女の神經は恐しいほど鋭く男に向つた。長田十郎無妻一月近くなる頃千代は漸くこれを知つた。直ぐ永久に見る事が出來ない別の日が來た。斯して經つた斯して經るより致方ないとの悲哀が男の胸から千代の胸へ傳つた樣に遣瀬なく流れた。其の時、男は千代が密に恐れて居た微動をも示さない深い靜な態度を見せて居た。一月も末になつたある日の朝、四五日來の雪が未だ音もなく降り續いてゐた。千代は起き出して机の前へ座つた。引詰た髮を大きく後に結んだ千代の顔には眠も食も得なかつた數日の苦悶が歴々と現れて居た、どうしても許されないと思ふ自分の戀が分明と見える丈、而して然う思ひ乍らどうする事も出來ない戀の苦しみが千代の顔を體を一月以前の彼女とは全く變つて見せてゐた。千代は何時間過ぎたか知らなかつた靜に座て凝と考へて居た。果しなく亂れる思を押のけてふるへる手に筆取つた時絶望の笑が一時に彼の女の蒼ざめた頰に上つた。（未完）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

良縁（四）

山本勇夫

翌朝良一は自分の部屋に安火の仕度をして、野村が來る迄の間でも爲事を爲樣と思つたけれど、決着して了はなければならない大事を控へて居る樣な氣がして机を安火の上に置くこともしないで、温袍にすつぽり包まつて雜誌の拾ひ讀みをし乍ら、うつらうつらと野村が來るのを待ち拘へて居た。

野村は何時もの時刻よりも少し遲く遣つて來た。母に挨拶を濟まして、ずつと良一の室に這入て來た野村の樣子に疲勞して居るらしいことを認めた良一は、直ぐと縁談のことを話かけるのを氣毒に思つて、除々と講演會で聽いた話を持ちかけた。けれど、野村は勢いが何時もより惡るく、

『何ふも、かうして役所に務めて居る現在の生活に對しても順應性の悲哀を感じて了ふよ、全くいやに成つて了ふ』なぞと、Sー氏が先日講演會で話した感想を引いたりして、『順應性の悲哀をも感じない位いになつて了つては爲樣がないよ、Sなんぞは流石偉いよ、そこに悲哀を感ずる丈けがさ。』と、かう淋しそうに言つて特に笑つた。

『む、全くだ。だけれど順應性の悲哀計り感じて居ても爲樣が無いから、所謂生の創造か……』と、かう言つた良一は、急に改まつて、『時に君、先夜の話は少し變だつたぢや無いか。』と、かう口を切つた。

『あれはね、例のたみさんの一件をまだ話して置かなかつたものだから、君のあれを兄も見て居たから知つて居るだらふと思つて居たのさ。』と、かう言つて野村は俯目にした。

『む、そうなると少し考へなければならないかと思ふ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

のだ。……約り言へば、君の兄さんの立場から云へば容貌や趣味の合つた女をといふよりも、寧ろ現實的に爲になる女といふ考へを抱くと思ふのだ。それが卽ち君の幸福といふことから打算するのだらふけれど、そうなると或は君の考へと違ふことになるかも知れないんだ。君の田舍の方では、君の堅實であることを知てるから、所謂爲めになる女といふもの丶世話があつて兄さんの方に的があるのぢやなからふか、……そうすれば熟考しなければならないぜ。』

『そうさ、兄の考へでは爲めになる女といふ考へがあるには相違ないがね……けれど現在僕に對して具體的の候補者といふものは無いんだよ。』

『それならそれ丈けは世話はないが。』

『……………………』野村は默つて烟草を燻かして居た。

『處で君の考へは何ふだね。僕が見る處では、かう思はれるのだ。君の現在の場合としては妻帶するのが一番い丶だらふと思ふのだ。もう少し君が若いければ急ぐ必要もないし、今迄君が女に就いて云々があつた人ならばいいかも知れない、また此れから先き何ふかふ云ふ人ならばい丶が、それは君には無し得ないことを僕は知つて居る。そうとすればもう三十四才と云へばもう性慾といふもの丶年限の先きが短かいからな。……もう一つは、君の貯金だ。君としてあれを持つて居ることが永ければ、若し近親に何かの事件があつて金の必要が起つて迫つて來られ丶ば、そうしてゐる間は應じない譯けに行かないのが今日迄の君だ。それを無くしてから、再び改めて貯めるといふことは至難のこと丶思ふのだ。……總てが先づ金錢といふものが先に立つ現代にあつて、それがまた容易に出來ない君として、丁度それが有るといふことは一つの好時期としない譯けには行くまいと思のだ。』と、良一は議論めいた口調でまくしかけた。

『む、それはもう、僕としては長くは金を持つて居られまいと思ふのだ。何かい丶費途が無いかとも思つてゐるんだよ。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『いゝ費い途ちとしては君、妻帶がいゝね、所帶を持つて小さくとも、先づ君自身の世界を作つて見るんだね……或は辛いことがあるかも知れないが、また其處には何か得る所があるかも知れないからね。』

『さあ、それがさ。』と、野村はかう言つて相談する樣な顏を向けた。少し言ひ過ぎたかと思つた良一は、尙ほ後とを言續けることに氣安くなつた。

『それで、と、君の考へは考へとして、兄さんの意向は何ふだらふ、君の妻帶といふことに對して兄さんの持つて居る見解といふものを確かめて見て置く必要もあらふかと思ふのさ。今度の話を控へて居る居ないに拘はらずさ、また君自身としても考へて置く必要もあらふぢや無いか。』

『僕と兄との間にそうしたことを話したこともないんだが、本當はもうそう言ふこと位いはちやんと話合つて定めて置かなければ成らない筈さ。僕自身としても眞面目にそう言ふことを考へたこともなかつたのだから、今度は考へて見るよ。』と、かう言つた野村は『兄きも大體無責任だよ。』と、呟いた。

良一はそれを聞き捨てにすることは出來なかつた。現在三十二歲になる弟を持つて居ても、その弟に具體的に妻帶の心配をして遣れない自分として野村を弟の樣に思つて居る自分として、彼れは自分が罵られた樣な氣がした。

『兄が無責任だつて？　それはいけない。』良一は言下に言つた。

『兄きが無責任だつて？　それはいけないよ。兄さんだつて、それは確かに心配して居らあね、君は知らなかつたけれど、たみ子の時だつても母と相談したこともあるしさ、……けれど、兄として君に妻帶したら何ふだと持出す以上には、結婚費は何ふ其後ちの生活費は何ふと、ちやんと自分に用意が出來て居ないことにはちよつと言ひ出せないよ、君に強い要求がありとすれば兎も角、僕が弟に對してだつてそうだよ。そこは兄としては誰れだつて同じだらふよ、苦しいさ、兄といふもの丶責任といふものは、本當に兄といふもの丶責

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

任といふもの丶何ふいふものかは知ないけれど……。それをさ「俺れは妻なんか何時だつていゝ」つていふ顏をして居たりさ「美人の敎育がある女を貰らふんだ」なんて口に言つたりして居るのなや、兄たるもの下手なことも言ひ出されないし、自分としても生計難に窮して居るといふ場合に遇つちやあーね。それで兄が無責任だけ少し酷いよ。』と、叱かる樣に辯解する樣にかう良一は續けた。

『それもあるか知れないね。』と、野村は恥かしい樣な顏をして言つた。良一はそれを氣の毒に思つた。

『それはそうとして、あの女だがね。來て吳れゝばいゝと思ふのだが。それにね君、小說が好きなんだと、君が小說を書くといふのが氣に入つてゐるといふのだが……』と、かう言つて良一は笑つた。

『そんなことを先きに話して吳れては困るな、向ふが買い被ぶらなければいゝが、來て見て幻滅の悲哀を味はあせるのは氣の毒だからね。』と、かう言つた野村は迷惑な顏をしたが、滿足の色が皮下に漂つて居た。

『それから、若し見合とでもなると、シャツなぞを袖からあまり出さない方がいゝつてしずが言つてたよ、そうして少しは着飾つて行つて吳れないと、などと言つて居たよ。君は何ふも不粹だからしずが心配して居るんだよ……。』と、かう言つて冗談らしく笑つた良一は、何時でも不性たらしい風をして、鬚も髮も手入したとのない顏の野村を見て可笑しく成つたが、これが野村の特長でもあるのだと思つたりした。

『此の儘でよかあないかね、けれどシャツを着たり股引を穿いたりして居ると氣の利いた女には惚れられないつていふ話だからな……。』と、かう言つて野村はちよいと顎をしやくる樣にした。

『着て居たつてよからふけれど、全く君のはあんまりシャツを出して居過ぎるからね。』と、かう言つて良一は笑つた。

良一は先達より今日と段々の話しから、愈野村に春子を貰ふことの希望があるといふことを確かめた。が、野村と野村の兄との思惑が違つてゐることを疑つて居

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るので、野村の要求が強ければ強い程、兄との考へが違つた場合の時が心配になつた。そうして彼は、或は野村も世間の習慣通りに兄といふ長上者の爲めに自分の主張や希望を壓迫されることもあらふかと心配しないでは居られなかつた。そうした場合には、自分の慾求を必ず抑へるに違いないと思つた良一はその時の野村を氣の毒だと思つて、かうした問題を持出さない方が良かつたとさへ考へたりした。

『何ふだい、僕が行つて兄さんに掛合つて遣るとしよふか。』と、かう良一は言つた。が野村はきつぱりと、しかも昂然として、

『いゝや、夫れには及ばないよ、自分の問題だから僕が話すからいゝよ。』と、かう言つて眼をきよろりと光からした。

『大丈夫かな。』

『いゝよ。』

『ぢやあ上手にね。』と、良一は野村の確かりした答へを喜しく思ひ乍ら、かう再び念を押した。

良一は、野村の最後の言葉が何時になく確かりした調子だと思つた。何時も冷やゝからしいのに今日に限つて熱を持つたことを感じた。と同時に、若しも兄との意見が喰ひ違つた時の彼が倘ほも氣になつた。

野村が歸つてから良一は、今日自分が野村に言つた言葉がけしかけた樣なことはなかつか、強いたよふなことはなかつたか、野村の兄から自分がけしかけたと思われやすまいかなぞと思つて、野村の後から行つて見たい樣な氣がしたりして居た。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

西川光二郎主筆

自働道話

平易簡明に、實践道德、新道德を説く雜誌にして、
九月號の要目左の如し

日本國民全體に對しての希望（西川光二郎）先祖の心（田中治五郎）嫁と姑（彦根育太郎）生きた事實（丸田善三郎）嘘の説（記者）

▲四六倍形八頁
▲一部郵税共三錢五厘
▲一年同四拾錢
▲毎月一日發行

新眞婦人社

新眞婦人合本（自一號至十二號）定價郵税共一圓
合本第二卷（自十三號至二十四號）同
合本第三卷（自二十五號至三十六號）同

職業教育が受けたい方は

若し若い婦人で、兩親から學資は出して貰へないが、體丈けは二三年許して頂けるから何か職業教育を授かりたいと云ふ方が御座いましたら御相談下さい、本社の賛助員の方で教育して下さる方が御座いますから。

本社の相談部

▲本社内に相談部を設け
(1)職業を求むる御婦人
(2)職業の撰擇に迷ふ御婦人
(3)家庭及び一身上に苦悶ある御婦人
(4)結婚の事
等の御相談に應じます。
▲相談部の主任に面會したき御婦人は、午後四時頃御出で下さい。
なほ右の件につき手紙で御相談下されば、直接又は誌上にて御答へすることにいたします。

新眞婦人定價表（毎月一回一日發行）

一冊	（郵税共）	拾貳錢
半年分	（郵税共前金）	六拾五錢
一年分	（郵税共前金）	壹圓貳拾錢

◎新眞婦人廣告料 特別面三十圓、一等廿五圓、二等二十圓、普通面十五圓、木版を要するものは別に實費を申受くべし

大正六年八月二十八日印刷納本
大正六年九月一日發行

發行兼編輯人及印刷人 本郷區駒込動坂町三二七番地 西川文子
印刷所 本所區番場町四番地 出版印刷株式會社分工場

東京市本郷區駒込動坂町三二七 新眞婦人社 郵便振替貯金口座東京（二四五五六）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

健康を進め精力を增し
銀行に會社に又は社會に首席を占めよ

弱肉强食、優勝劣敗の語は陳套の嫌ひあれど生活問題は年毎に新しき研究の材料たり、そは兎もあれ、此のせち辛き世に處して優勝の地歩を占め、或は天下の權を握り、或は巨萬の富を積み、世に望月の缺くる處もなく過さんには身體の强壯、腦力の健全、精力の旺盛を計らざるべからず、偖て其方法如何と云ふに古往今來幾千歳、實驗の結果は人蔘精の服用に增るものなし、弊園夙きに諸博士の研究に基き最新學理を應用して特に効驗優越なる人蔘精を發賣す、今試に其需要者を區分するに凡そ三分して、

其の一は碩學鴻儒、紳縉貴顯の各位に屬し

他の一は早大、帝大、慶大の學生諸君にして

殘の一は不思議にも新橋の柳巷、赤坂の花街乃至吉原の不夜城に珍重せらるゝことなるが而かも之れ不思議に似て決して不思議に非ず、本品の效用、精力を旺盛ならしむる證左なり、常に人蔘精を服用せる早大教授は一日九時間の講演に疲勞を覺えず、一學生は徹夜勉强して、翌日の試驗に平然として好果を收めたりとて、該教授は實例を擧げて學生に服用を推奬せらる、亦た以て人蔘精の效驗を知るに足らんか學校に銀行に會社に首席を占め社會に頭角を現はし、優者たり勝者たらんと欲するの士に敢て人蔘精の服用を勸む◎無量壽藥園製人蔘精十瓦入六十錢廿瓦入壹圓四十五瓦入貳圓送料八錢◎東京市小石川區下富坂町二〇(胃腸病胃癌の妙藥タラコン湯本舖)無量壽藥園(電話番町四一三八振替東京二〇〇二一番)

特約店募集

堅實にして精力に富む紳士を求む

最近學理の證明する處によれば人蔘の水に溶解する部分は有效成分の或種に限らる坊間販賣の人蔘エキスは其煎汁を煮詰めたるものなるが本品は諸博士の報告に基き有效成分の全部を抽出したるものなり

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

西川光二郎主筆

自働道話

平易簡明に、實践道徳、新道徳を説く雑誌にして、
九月號の要目左の如し

日本國民全體に對しての希望(西川光二郎)先祖の心(田中治五郎)嫁と姑(彦根育太郎)生きた事實(丸田善三郎)嘘の説(記者)

▲四六倍形八頁
▲一部郵税共三錢五厘
▲一年同四拾錢
▲毎月一日發行

新眞婦人社

新眞婦人合本 (自一號至十二號) 定價郵税共一圓
合本第二卷 (自十三號至二十四號) 同
合本第三卷 (自二十五號至三十六號) 同

職業教育が受けたい方は

若し若い婦人で、兩親から學資は出して貰へないが、體丈けは二三年許して頂けるから何か職業教育を授かりたいと云ふ方が御座いましたら御相談下さい、本社の贊助員の方で教育して下さる方が御座いますから。

本社の相談部

▲本社内に相談部を設け
(1) 職業を求むる御婦人
(2) 職業の撰擇に迷ふ御婦人
(3) 家庭及び一身上に苦悶ある御婦人
(4) 結婚の事
等の御相談に應じます。
▲相談部の主任に面會したき御婦人は、午後四時頃御出で下さい。
なほ右の件につき手紙で御相談下されば、直接又は誌上にて御答へすることにいたします。

新眞婦人定價表(毎月一回一日發行)

一冊(郵税共)拾貳錢
半年分(郵税共前金)六拾五錢
一年分(郵税共前金)壹圓貳拾錢

◎新眞婦人廣告料 特別面三十圓、一等廿五圓、二等二十圓、普通面十五圓、木版を要するものは別に實費を申受くべし

大正六年八月二十八日印刷納本
大正六年九月一日發行
本郷區駒込動坂町三二七番地
發行兼編輯人及印刷人 西川文子
本所區番場町四番地
印刷所 凸版印刷株式會社分工場
東京市本郷區駒込動坂町三二七 新眞婦人社 郵便振替貯金口座東京(二四五五六)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

健康を進め精力を增し

銀行に會社に又は社會に首席を占めよ

弱肉強食、優勝劣敗の語は陳套の嫌ひあれど生活問題は年毎に新しき研究の材料たり、そは兎もあれ、此のせち辛き世に處して優勝の地歩を占め、或は天下の權を握り、或は巨萬の富を積み、世に望月の缺くる處もなく過さんには身體の强壯、腦力の健全、精力の旺盛を計らざるべからず、偖ては其方法如何と云ふに古往今來幾千歳、實驗の結果は人參精の服用に增るものなし、弊園曩きに諸博士の研究に基き最新學理を應用して特に効驗優越なる人參精を發賣す、今試に其需要者を區分するに凡そ三分して、

其の一は碩學鴻儒、紳縉貴顯の各位に屬し

他の一は早大、帝大、慶大の學生諸君にして

殘の一は不思議にも新橋の柳巷、赤坂の花街

乃至吉原の不夜城に珍重せらるゝことなるが而かも之れ不思議に似て決して不思議に非ず、本品の效用、精力を旺盛ならしむる證左なり、常に參精を服用せる早大教授は一日九時間の講演に疲勞を覺えず、一學生は徹夜勉強して、翌日の試驗に平然として好果を收めたりとて、該教授は實例を擧げて學生に服用を推奬せらる、亦た以て人參精の效驗を知るに足らんか學校に銀行に會社に首席を占め社會に頭角を現はし、優者たり勝者たらんと欲するの士に敢て人參精の服用を勸む◎無量壽藥園製人參精十瓦入六十錢廿瓦入壹圓四十五瓦入貳圓送料八錢◎東京市小石川區下富坂町二○(胃腸病胃癌の妙藥タラコン湯本舖)無量壽藥園(電話番町四一三八振替東京二〇〇二一番)

特約店募集

堅實にして精力に富む紳士を求む

最近學理の證明する處によれば人參の水に溶解する部分は有效成分の或種に限らる坊間販賣の人參エキスは其煎汁を煮詰めたるものなるが本品は諸博士の報告に基き有效成分の全部を抽出したるものなり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新眞婦人第五十三號
大正二年四月二十六日第三種郵便物認可
大正六年八月二十八日印刷納本
大正六年九月一日發行（毎月一回一日發行）
定價金拾壹錢

何時使つても
新鮮な感じのする

ライオン歯磨は

最も確實な衛生上の効果の外に、どなたにも好かれる優雅な香と歯觸とを持つてをります。

殊にライオン歯磨の煉製は上品で使ひ心地よく、またライオン歯磨の水製は簡便で含嗽用に適し、一は旅行にも携帯すべく、他は食後寢前にも試むべく、文明人の日常生活に無くてならないものでございます。

東京本所區外手町
ライオン歯磨
ライオン石鹼 本舖 小林富次郎
支舖 大阪市堀川秀町二丁目
名古屋市飯名町四丁目

(819―6)